

総合計画 後期基本計画 基本施策

施策一覧

1-1	こころと体の健康づくり	4
1-2	保健衛生体制の充実	6
1-3	地域福祉の推進	8
1-4	高齢者福祉の充実	10
1-5	障がい者福祉の充実	12
1-6	生活の安定と自立への支援	14
1-7	結婚、妊娠出産、子育て支援の充実	16
1-8	子どもを育む環境の充実	18
1-9	質の高い保育・幼児教育の実現	20
2-1	担い手の確保と農地の有効利用	22
2-2	生産振興と販売力の強化	24
2-3	森林の保全と資源の活用促進	26
2-4	商工業の振興	28
2-5	市内事業者の経営強化	30
2-6	地域独自の観光資源の活用	32
2-7	アウトドア・スポーツを核としたまちづくり	36
2-8	戦略的な観光プロモーション	38
2-9	就労の促進、多様な働き方への支援	42
2-10	起業・事業承継の支援	44
3-1	防災・減災対策の推進	46
3-2	地域消防力の強化	48
3-3	治山・治水事業の推進	50
3-4	防犯・交通安全の推進	52
3-5	消費者保護の推進	54
4-1	自然環境の保全	56
4-2	循環型社会の実現	58
4-3	脱炭素社会の実現	60
4-4	地域の特性に応じたまちづくり	62
4-5	暮らしと調和する景観の保全	64
4-6	道路整備の推進	66
4-7	上下水道の安定経営	68
4-8	持続可能な公共交通の形成	70
4-9	良質な住環境の整備	72
4-10	移住・定住の推進	74
4-11	空き家対策の推進	76
5-1	学校教育の充実	78
5-2	家庭・地域との連携の推進	82
5-3	生涯を通じた学びの創出	84
5-4	スポーツを楽しむ環境の充実	86
5-5	文化・芸術活動の推進	90
5-6	歴史・文化遺産の継承	92
6-1	協働によるまちづくり	94
6-2	共生社会の実現	98
6-3	交流活動の推進	102
6-4	デジタル技術を活用した行政変革	104
6-5	市民の視点に立った行財政運営	106

1-1 こころと体の健康づくり

一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康づくりに取り組むことができる環境・支援体制を整備し、健康寿命の延伸を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 健康づくりへの関心が高い</p> <p>市民意識調査では、健康づくり施策を重要と感じている市民が多く、今後も健康づくりに取り組みやすい環境や相談・支援体制の維持・整備・周知が必要です。</p> <p>一人ひとりが健康づくりに取り組み、心身ともに健康を維持・増進することは、個々のQOLの向上だけでなく、医療費や介護給付費等、社会保障費の伸びの抑制にも繋がります。</p>	<p>1st. こころと体の健康の維持・増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体の健康状態を確認するための各種健(検)診の実施と周知に努め、受診率及び精密検査受診率の向上を目指します。 ・ 健診結果データを活用し、生活習慣病発症予防、重症化予防の保健指導を実施し、健康でいきいきとした生活ができるよう努めます。 ・ こころの健康に関する正しい知識の普及啓発や相談体制の充実を関係機関と連携して、図り、自殺対策を推進します。
<p>○ 特定健康診査受診者(受診率)の向上が課題</p> <p>安曇野市の特定健康診査受診率は、国の示した目標値を下回っています。</p> <p>脳心血管疾患など重大疾患につながる生活習慣病を予防・早期発見し、国保加入者の医療費抑制を図るため、特定健康診査の受診勧奨を積極的に行う必要があります。</p>	<p>2nd. 特定健康診査受診勧奨対策と受診しやすい体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き盛りの若い世代にも受診しやすいよう休日健診を実施します。 ・ 過去の健診データから生活習慣病の高リスク者と判定された人には、積極的に受診勧奨を行います。 ・ 健康状態の変化を把握していくため、特定健康診査の継続受診を促します。
<p>○ 市民のスポーツとの関わり</p> <p>市民が参加するスポーツの実施率を高めるためには、新たにスポーツへ参加する機会を促すことが必要です。</p> <p>また、中高年の健康維持と高齢者の介護予防のための身体活動やスポーツの取組に関して、市では様々な教室や体験等の機会を提供しています。</p> <p>このようなニーズはさらに高まると考えられ、これに対応できる行政機関や民間団体等の組織が相互に連携する体制を整える必要があります。</p>	<p>3rd. 気軽に参加できるスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者、未経験者、親子のスポーツ参加者の機会を拡充するために、軽スポーツをテーマにした教室や講座等の充実を図ります。 ・ 歩くことでポイント等を貯め、特典が得られるなど、ウォーキング+αの魅力を作り出し、健康づくりの意欲を高めます。 ・ ニーズや意向を把握し、民間組織と連携しながら健康長寿のまちづくりに取り組みます。 ・ スポーツや身体活動に関する講演会、学習会等を開催し、市民の健康づくりに向けた意識啓発を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
人口 10 万人当たりの自殺死亡者数（人）	18.0（R2）	14.6 以下（R8）	
特定健康診査受診率（％）	44.4（R3）	56（R9）	R3 受診率（暫定値）受診率について、翌年 10 月ごろ前年度数値が確定となります。
軽スポーツ及び競技スポーツ初体験会（教室等）の参加者数（人）	76（R3）	200（R9）	市が実施する教室等への参加者
親子で参加するスポーツ教室等の参加者数（人）	434（R3）	600（R9）	市が実施する教室等への参加者

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	・ 誰もが生涯を通して活躍できるよう、高齢者の健康増進に取り組みます。
選ばれるまち安曇野 の持続	・ 一人ひとりが健康づくりに取り組めるよう、健康づくりの正しい知識の普及啓発、環境・支援体制の充実を図ります。 ・ 特定健康診査を受診することから、生活習慣病の発症予防、重症化予防が始まります。
アウトドア・シティの 形成	・ 年代を問わずアウトドア・スポーツに触れられる機会を創出するため、高齢者が自然と触れられるトレッキング等のプログラムの充実を図ります。

1-2 保健衛生体制の充実

安心して必要な医療サービスが受けられるように地域医療の充実を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 安心して医療サービスが受けられる体制の維持・継続が課題</p> <p>夜間休日でも医療が受けられるように、夜間急病センター事業、在宅当番医制事業等を行い、医療体制を整えています。この体制を維持するには、市内医療機関等との協力体制が必要です。</p>	<p>1st. 地域の医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療体制が確保できるように、県立こども病院や医師会、歯科医師会、薬剤師会等と連携を図っていきます。 ・ 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持つことの周知を図ります。
<p>○ 産婦人科医が不足し、分娩医療体制の確保が課題</p> <p>全国的に産婦人科医が不足する中で、分娩を取り巻く環境は厳しい状況です。産婦人科の医療体制を今後も維持、継続できるようにしていくことが課題です。</p>	<p>2nd. 松本医療圏における持続可能な医療体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「松本大北地域出産・子育て安心ネットワーク」を通じて、周産期医療体制について市民に周知し、持続可能な体制を検討していきます。
<p>○ 新型コロナウイルス感染症等の新たな感染症への対策が課題</p> <p>令和2年から新型コロナ感染症が発生し、予防接種や検査等の対応が求められています。</p> <p>新型コロナ感染症に対する体制の構築に加え、新たな感染症への対策が必要です。</p>	<p>3rd. 感染症に対する対策を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症に対する正しい知識の周知と感染症予防・感染拡大防止に向けた周知・啓発を行います。 ・ 新型コロナ感染症の拡大防止に対する体制を維持します。また、新たな感染症が発生した際に備え、関係機関との連携を図り、感染拡大防止に向けた体制を整備します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市民意識調査 市に愛着を感じる理由で医療・福祉が充実している割合（％）	24.3（R4）	増加（R9）	
松本医療圏の妊婦健診協力医療機関の維持（カ所）	15（R4）	15（R9）	
お子さんのかかりつけの医師がいる割合（％）	85.5（R3）	87.4（R9）	乳幼児健診時アンケートに（3歳児）における「はい」の回答割合

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続

- ・ 休日や夜間に医療が受けられるように夜間急病センター事業や休日当番医制事業の継続を図ります。
- ・ 安心して出産ができるように松本医療圏で医療体制の確保を図ります。

1-3 地域福祉の推進

住み慣れた地域において、人とのつながり、支え合う環境を構築することにより、安心して自分らしい生活を送ることができる地域共生社会を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域をとりまく福祉課題への対応</p> <p>少子高齢化が進展するなか、何らかの手助けや支援を必要とする人が増えており、また価値観や生活様式の多様化により人と人とのつながりが希薄となっています。</p> <p>このため、地域の支え合いの力が弱まり、孤立する人が増え、生活困窮者への支援など、新たな福祉課題への対応が必要な社会となっています。</p>	<p>1st. 新たな課題に対応する協力体制を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな福祉課題に対応し、地域で支え合いを行うため、行政だけでなく、福祉団体、NPO法人、民間事業者などが、それぞれの役割のもとに、課題解決を進めていきます。
<p>○ 関係機関との連携が求められる</p> <p>地域の福祉水準を高めていくためには、市だけでは、実現困難な事業もあるため、関係機関と連携し、福祉サービスを充実させ、地域福祉の課題を解決していくことが必要です。</p>	<p>2nd. 社会福祉協議会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動の拠点である社会福祉協議会と密に連携することで、地域における福祉ニーズの把握や、住民が抱える生活課題の解決に向けた取り組みを支援します。 社会福祉協議会の運営支援を行うことで、地域福祉事業の向上につなげます。
<p>○ 地域福祉を支える人材の育成が必要</p> <p>民生委員・児童委員が、地域住民からの相談対応や地域の一人暮らし高齢者宅等への訪問、見守り活動等を行っています。</p> <p>地域福祉を支える人材の育成をいかに進めるかが、課題となっています。</p>	<p>3rd. 民生委員・児童委員の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員が、各区長や社会福祉協議会、包括支援センター等と連携が取れる体制を構築するため、情報交換の場の設定や研修会等の開催について調整を行います。 民生委員・児童委員協議会の運営やスキル向上のための研修会への参加等を支援します。
<p>○ 災害時の要配慮者への支援の充実が課題</p> <p>災害時に支援が必要な要配慮者が増えていますが、災害発生時に備えて、平常時からの地域での見守り体制の一層の充実が求められています。</p>	<p>4th. 避難行動要支援者名簿の地域への提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域での見守り体制の充実のため、避難行動要支援者名簿を地域に提供し、見守り体制の構築に繋げています。 地域へ情報提供できる人を増やすため、避難行動要支援者名簿提供同意率の向上を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市民意識調査「地域において、 支え合える関係が築けている」 と考える人の割合（％）	29.5（R4）	35.0（R9）	「満足している」、「まあ満足している」を合算した割合
避難行動要支援者名簿提供同意 率（％）	65（R3）	70（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
まちの推進

- ・ 高齢者は地域を支える人材であるという認識のもと、民生委員や児童委員への高齢者の起用を推進します。
- ・

選ばれるまち安曇野
の持続

- ・ 高齢者などが安心して生活できる地域福祉体制の実現により、安心して住み続けられる安曇野を実現します。

1-4 高齢者福祉の充実

高齢者が住み慣れた地域で、健康で生きがいと役割を持ち、安心して暮らすことができる地域社会を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 高齢者の増加と現役世代の急減</p> <p>安曇野市の高齢化率は、令和4年4月1日時点で31.6%であり、団塊の世代が75歳以上となる2025年及び団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年に向けて高齢化率は増加の一途をたどり、医療・介護等の需要の急増と介護ニーズの多様化・複雑化が予想されます。</p> <p>また、現役世代が急減することにより医療・介護等の担い手不足が生じます。</p>	<p>1st. 地域包括ケアシステムの構築と実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分野にまたがる総合的な相談体制を構築します。 高齢者の尊厳が保たれる社会を構築するため、成年後見などの権利擁護に関する相談・支援体制の充実を図ります。 在宅生活を支える医療と介護の連携体制を強化し、介護保険制度や市独自の事業を通じて生活支援が切れ目なく提供される地域づくりを進めます。 市民の協力を得て地域の課題に取り組む生活支援体制整備事業を推進します。
<p>○ フレイル予防と健康寿命の延伸にむけて</p> <p>令和4年7月に公表された安曇野市の健康寿命は、男性81.2歳、女性85.1歳で、平均寿命との差は、男性が1.6歳、女性が3.3歳となっており、平均を上回っています。</p> <p>高齢者が生涯現役でひとりひとりの健康寿命を延伸し、平均寿命に近づけるためには、フレイル予防の取組が重要になります。</p>	<p>2nd. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の低下と生活習慣病等の重症化がフレイル状態に強く影響を及ぼすため、個別およびグループを対象とした保健事業と介護予防の取組を強化します。 心身の機能低下等は、外出機会など、社会的な繋がり希薄化を招きます。このため、新しい生活スタイルを踏まえた住民主体の社会活動などの取組を支援します。
<p>○ 高齢者の生きがいや健康づくり</p> <p>高齢者が地域とのつながりや社会参加を通して生きがいを深めていくことが社会ニーズとなっており、高齢者の閉じこもりを予防し、地域の生きがいづくり活動や健康づくり活動である健康体操やウォーキング、ヨガや太極拳、健康麻雀、歌や楽器の演奏などの活動を支援することにより、高齢者自身の健康長寿に向けた活動を維持しています。</p>	<p>3rd. 高齢者の外出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が教養を深め、仲間と趣味の活動やスポーツを楽しむなど、持続性のある活動を推奨し、生きがいを持ち充実した生活を送ることができるよう、社会参加の推進を図ります。 高齢者が利用する各地域の福祉センターでのサービスの提供を維持し、気持ちよく利用していただけるよう施設を管理していきます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
元気高齢者の割合（％）	90.1（R4）	90.4（R9）	要介護2以上の介護認定を受けていない65歳以上の割合
健康寿命（歳） 男性	81.2（R4）	延伸（R9）	健康寿命（平均自立期間（要介護2以上を除いたもの））
健康寿命（歳） 女性	85.1（R4）	延伸（R9）	健康寿命（平均自立期間（要介護2以上を除いたもの））
アクティブシニアがんばろう事業等補助金申請数（団体）	80（R4）	90（R9）	（事業概要）健康増進や介護予防につながる事業を補助することで、高齢者の地域コミュニティの形成を図り、活力あるまちづくりを促進する。

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒ 介護新規認定原因疾患調査（市独自調査）

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・ 地域や職域で認知症の人やその家族を手助けする認知症サポーターを養成します。また、認知症サポーターのさらなる活躍を促進するための団体として、「チームオレンジ」を設置します。
- ・ シルバー人材センターやシニアクラブ等の活動を支援し、高齢者の活躍を促進します。
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防について、個別及び集団に対するアプローチを一体的に実施します。

選ばれるまち安曇野 の持続

- ・ 入浴料金割引券を交付し、高齢者が快適に過ごせる機会を提供します。
- ・ 中長期的に整備が必要な介護施設について、地域の実情を的確に捉え、基盤整備を進めます。

1-5 障がい者福祉の充実

障がいのある人もない人も地域の一員として認め合い、いきいきと安心して暮らすことができるまちを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域移行への課題</p> <p>障がい者(児)が住み慣れた地域で安心して生活を送るために、日々の暮らしの中で抱えるニーズや課題にきめ細かく対応し、適切な支援につながる体制づくりが求められています。</p> <p>また、生活を支えるサービスを始めとする地域をあげた包括的支援を進める必要があります。</p>	<p>1st. 適切な支援体制の構築</p> <p>障がい者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据えた中で、相談支援の核となる基幹相談支援センターを市内に設置し、相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>精神通院医療申請者や精神障害者保健福祉手帳交付者の増加に対応し、精神障がいの有無や程度に関わらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしく暮らすことができるよう、多様な関係者の連携による支援体制を構築します。</p>
<p>○ 社会参加しやすい環境づくりが求められる</p> <p>障がい者(児)が地域の一員として自立し、社会参加できる環境づくりを進めるため、障がいに対する理解の促進や障がい者差別の解消に向けた取り組みの継続が必要です。</p>	<p>2nd. 自立に向けた就労支援</p> <p>就労を通して社会参加を促進するため、企業等へ働きかけを行い、ハローワークとも連携し、一般就労の拡大に取り組みます。</p> <p>障がいや障がい者に関する正しい理解を広めるための周知を行い、障害者週間等に合わせて共生社会の実現を図るため、啓発活動を行います。</p>



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
基幹相談支援センターへの相談件数（延べ件数）	1,524 (R3)	1,856 (R9)	福祉行政報告例「市町村相談件数」の増減率から年4%の対応増加数を試算
就労移行支援を受けた一般就労移行者数（人）	6 (R3)	10 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒障がい者（児）数（安曇野市の統計）

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・ 障がい者（児）の社会参加を実現するため、外出等の支援を継続し、地域活動や文化、スポーツなどの様々な活動に参加できるよう、地域や関係機関、団体と連携した体制づくりに取り組めます。
- ・ 災害時に「誰一人取り残さない」ために、障がい者（児）や高齢者等の要支援者名簿への掲載や個別避難計画の策定に向け、危機管理課や福祉課、市社協と連携して取り組めます。

1-6 生活の安定と自立への支援

生活困窮者が抱える様々な問題や不安に寄り添うことで自立と尊厳が確保され、健康で文化的な生活を送ることができると目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生活困窮の要因が複雑・多様化</p> <p>社会経済情勢の変化や新型コロナウイルスの影響により、生活困窮の要因が複雑化・多様化しています。</p> <p>生活に困っている人が気軽に相談できる環境を整えることが必要です。</p>	<p>1st. 相談支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に不安を抱えている方の相談窓口として「まいさぼ安曇野」が設置されています。困ったときに誰もがすぐに相談できるよう、広く周知していきます。 関係機関や地域との連携を強化し、必要に応じた支援につないでいきます。
<p>○ 生活の自立に向けた支援が必要</p> <p>社会保険制度や労働保険制度だけでは、市民の安定した生活を支えきれなくなっています。</p> <p>生活保護の受給や社会的に孤立する前に、自立支援を含む包括的な支援に取り組むことが求められています。</p>	<p>2nd. 生活困窮者自立支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2のセーフティネットである生活困窮者自立支援制度を活用し、困窮が深刻化する前に問題解決を図るための支援に取り組みます。
<p>○ 生活保護世帯が増加傾向</p> <p>新型コロナウイルス感染症やそれに伴う不景気などの影響を受け、生活保護世帯数は微増傾向にあります。</p>	<p>3rd. 生活保護法の適正運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後のセーフティネットとなる生活保護制度の適正運営に努めるとともに、就労支援やその他実情に応じた自立の支援を行います。
<p>○ 既存市営住宅の老朽対策が急務</p> <p>住宅に困窮する低額所得者へ市営住宅を低廉な家賃で賃貸し、利用対象者の住生活の安定を図っています。</p> <p>現在、建設後40年を経過した団地が、市営住宅全体の約6割を占め、施設全体の劣化が著しく、住宅環境の改善が求められています。</p>	<p>4th. 適切な維持管理と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備に向けて新規入居を停止している団地については、長寿命化計画に基づく廃止・建替え・改修等の整備を進め、住宅環境の改善を図ります。 新規入居を募集している団地については、長寿命化計画に基づく予防保全型の維持管理を実施し、良好な住宅環境と低廉な家賃形態を長期に亘り提供できるように努めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
生活困窮者に対する相談支援件数（件）	431（R3）	450（R9）	まいさば安曇野及び安曇野市福祉課への相談件数の合計
生活困窮者支援に対する満足度の割合（％）	18.8（R3）	20.0（R9）	「満足している」「まあ満足している」の割合
生活保護申請件数（件）	59（R3）	53（R9）	
良好な住環境が整備されている住戸数（戸）	148（R3）	190（R9）	耐用年数未経過又は住戸改善対策済の住戸

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
まちの推進

- ・ 生活困窮に陥りやすい高齢者や障がい者を守るため、生活困窮者自立支援制度や生活保護制度に基づく支援策を講じ、安定した生活に導きます。
- ・ 関連する取組・事業等を記入

1-7 結婚、妊娠出産、子育て支援の充実

結婚や妊娠期から子育て期の家庭に寄り添った切れ目ない支援の充実により、安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもが健やかに成長できるまちを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 出生数の減少と子育て環境の変化</p> <p>出生数は減少傾向(R2の合計特殊出生率:1.43)にあり、少子化、核家族化、共働き家庭の増加、地域とのつながりの希薄化などから、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。</p> <p>また、乳幼児健診時に実施しているアンケート調査(R3年度)では22.0%の親が乳幼児期において育てにくさを感じており、きめ細やかな支援が必要です。</p> <p>安心して子育てできるよう、妊娠期からの切れ目ない支援体制と、関係機関等との連携を推進して行くことが求められています。</p>	<p>1st. 切れ目ない母子 保健対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して妊娠・出産・育児が行えるよう、産前産後・子育て支援サービスの充実を図ります。 子どもが健やかに成長発達し、親が見通しをもって子育てに取り組めるよう、子どもの成長発達に応じた母子保健事業を実施するとともに、関係機関との連携体制を推進します。
<p>○ 不妊治療費の助成申請をする方の増加</p> <p>不妊・不育症治療費助成事業の申請を行う夫婦が増えており(R2:124件 R3:144件)、年度内に不妊治療を申請された方の内、約3割が妊娠につながっています。</p> <p>ただ、不妊治療は、治療費が高額となり、対象者の経済的な負担が大きいと言われています。</p>	<p>2nd. 不妊・不育症治療費に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> 不妊不育症の治療費を助成することで、対象者の経済的な負担軽減を図ります。
<p>○ 未婚率の上昇や晩婚化が進む</p> <p>出生数の減少が進む要因の1つに、個人や社会の結婚観が変化し、未婚率の上昇や晩婚化が進んでいることが考えられます。</p> <p>一方、令和2年度に市が実施した市民意識調査の中では、若年層(18歳~30代)が考える未婚化・晩婚化の要因は、「経済的不安」と「出会う機会のなさ」がおよそ半数を占めています。</p> <p>出生数の向上を図るため、若年層が抱える課題に対し、サポートを行う必要があります。</p>	<p>3rd. 出会い、結婚を望む市民への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 出会いの相談の実施や結婚・イベントに関する情報の発信などにより、結婚に向けた活動を支援します。 結婚を希望する人が結婚できるよう、出会いの場の提供を継続して行くとともに、若者の結婚新生活に伴う経済的負担の軽減を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
この地域で子育てをしたいと思う3歳までの子どもを子育てしている親の割合（乳幼児健診時のアンケート）	98.0 (R3)	99.0 (R9)	
むし歯のない3歳児の割合（％）	90.1 (R3)	91.0 (R9)	
新婚生活サポート件数（件）	5 (R3)	30 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入
選ばれるまち安曇野 の持続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもが健やかに成長できるよう、妊娠期から子育て期にかけて切れ目ない支援の充実を図ります。

1-8 子どもを育む環境の充実

安心して生み育てる環境を整えるために、妊娠から出産、子育て期までの一貫した切れ目のない支援体制を整え、子どもを生み育てたくなるまちづくりを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 乳幼児の親に対する支援が必要</p> <p>乳幼児健診時に実施しているアンケート調査(R3年度)では、乳幼児期において10%強の親が育てにくさを感じた時の相談先等を知らないことがわかっており、子育てを始めたばかりの乳幼児の親に対する支援が必要です。</p>	<p>1st. 相談機関の情報提供や子どもの発達に応じた支援が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階や個々の相談内容に応じて、きめ細かな支援を行います。 保護者が悩みを感じた時、気軽に相談ができるよう、子育て相談窓口や関係機関等の周知に努めます。
<p>○ 子育ての支援に対するニーズが増加</p> <p>核家族世帯や共働き世帯が増加する等、社会状況の変容に伴い、負担感増加や子育ての孤立化が進行しており、子育て世帯への仕事と子育ての両立支援、経済支援、子育ての不安に対する相談体制の整備が要望されています。</p> <p>そのようなニーズに応えられるよう施策を展開する必要があります。</p>	<p>2nd. 子育て支援の要望に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブは、全てのクラブで6年生までの受け入れを行います。 家庭で子どもを養育する保護者に対し、引き続き子育て応援手当を支給します。 ひとり親家庭の保護者へ自立支援給付金を支給し、就業を支援します。 学習支援など、生活困窮家庭への支援に取り組みます。 妊娠から子育てまで子どもに関する相談ができる子育て総合窓口の設置を検討します。 障がいや発達特性を持った子どもたちに対する療育に加え、子どもたちの受け入れ環境の整備など、安心して生活できる支援に取り組みます。
<p>○ 医療費の負担軽減</p> <p>子育て世帯の、経済的不安を減らし、医療機関へ、安心して受診できるよう、医療費の給付を行っています。</p>	<p>3rd. 児童の医療費補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 18歳到達年の年度末までの児童について、医療機関等での窓口負担が、1レセプト当たり最大500円で受診することができます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
「市の各種子育て相談窓口の認知度」	88.0% (R3)	89.0% (R9)	乳幼児健診時のアンケート（3歳以下が対象）
6年生まで受け入れる児童クラブ数	2 (R3)	10 (R9)	全ての児童クラブにおいて6年生まで受け入れ

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	・ 生活困窮家庭への学習支援に取り組み、誰もが子育てしやすい環境をつくれます。
選ばれるまち安曇野 の持続	・ 全ての児童クラブで6年までの受入れを実現し、子育てしやすいまちづくりを推進します。
AZUMINO ブランドの 世界発信	・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入
文化・芸術中核都市の 実現	・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入
アウトドア・シティの 形成	・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入

1-9 質の高い保育・幼児教育の実現

多様化する保育・教育ニーズに対応するため、保育環境の整備と保育者一人ひとりの資質向上を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 3歳未満児の利用が増加</p> <p>少子化の影響から3歳以上児のこども園・幼稚園の利用者は減少しており、空き教室の活用など効率的な運営が求められています。</p> <p>一方で、3歳未満児の利用者は増加傾向にあり、特に0歳児、1歳児については、申込数が多く受け入れができない状況となっています。</p> <p>また、定員に満たない施設であっても、保育士の確保の状況等から受け入れができない場合があります。</p>	<p>1st. 待機児童ゼロに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳未満児の保育ニーズに対応するため、空き教室を活用した受け入れや、小規模保育事業所の設置を行い、受け皿の確保を図ります。 ・ 保育士の業務負担を軽減するため、保育を補助する会計年度任用職員の雇用を支援します。
<p>○ 自然を活用した保育・幼児教育の取り組み</p> <p>豊かな自然環境と多様な地域資源を活用し、屋外を中心とするさまざまな体験活動を積極的に取り入れた保育・幼児教育を推進しています。</p> <p>あずみの自然保育のブランド化とその活動を若い世代に積極的にきめ細やかな情報発信をすることで、移住・定住の促進を図っています。</p>	<p>2nd. あずみの自然保育のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信州型自然保育では、子どもたちは「心を動かす」体験をします。自ら興味をもち、考えていく体験は成長する根幹を作っていく中で、たくましい子どもたちを育てることが出来ます。安曇野といえば自然保育と知れ渡るようブランド化に取り組んでいきます。 ・ 自然保育の担い手として、保育士資格のある地域おこし協力隊を起用し、安曇野自然保育のブランド化と移住・定住の促進を図ります。
<p>○ 保育サービスの多様化が必要</p> <p>公立認定こども園 18 園、公立幼稚園1園、私立認定こども園2園、私立保育所が1園あります。</p> <p>今後は、サービスに多様性を持たせ、多様化する保護者のニーズに合わせて園を選択できる環境づくりが求められています。</p> <p>また、公立認定こども園での正規職員の占める割合は3割に満たない状況で、保育士の確保という課題も抱えています。</p>	<p>3rd. 民営化による特色ある保育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市が目指す幼児期の教育・保育の環境の実現化のため、民間の活力を借りながら、課題解決を図り、持続可能な保育体制を整えます。 ・ 施設改修の有無、利用ニーズの高さを考慮し、民営化する園が一部の地域に集中しないようにバランスよく配置します。

<p>○ 保育士の業務環境の改善が求められる</p> <p>保育士の業務は、保育をはじめ事務作業や保護者対応など多岐に渡るため、休暇取得ができない、残業が多いなど業務環境の改善が求められています。また、それによる離職率の高さが問題となっています。</p>	<p>4th. ICT化による保育業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立認定こども園、公立幼稚園に ICT(情報通信技術)システムを導入し、業務の効率化・省力化を図り、業務環境の悪化に伴う保育士不足の改善と人材の確保に努めます。 保育士同士の情報共有、園児の体調の変化や突発的なケガの連絡など保護者との連絡体制を整えます。
---	--



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
待機児童数 (人)	0 (R4)	0 (R9)	4月時点の数値 潜在的待機児童を除く。
あづみの自然保育インストラフ ロー数 (人)	391 (R3)	1,000 (R9)	
公立こども園民営化 (園)	1 (R3)	3 (R9)	
ICT活用 (保育士・保護者) (%)	25 (R3)	95 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名(統計名)を以下に記載してください。
(希望がある場合) ⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続 ・ 安曇野自然保育の情報を発信しながら、自然保育のブランド化することで若い世代の移住、定住を促進します。

2-1 担い手の確保と農地の有効利用

農地を維持、保全をするため、多様な「農」の担い手が十分にいる状態を目指して、経営の世代交代支援、新規就農者の確保・育成を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 農業に従事する方が急減</p> <p>現在、兼業・零細農家等を含め高齢化などの事情により、農業に従事する人口が急減しています。後継者候補がいても、収益性の低さや負担の大きさといった理由から、経営規模が小さくなるほど後継者に農業を継がせることが難しい状況にあります。</p>	<p>1st. 農業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな担い手を確保していくため、支援窓口を充実させるとともに、スタートアップ支援、住まい・農地の確保支援を推進し、新たな担い手が就農・自立していくための総合的な支援を行います。
<p>○ 耕作面積は一定の水準を維持</p> <p>農家が減少する一方で、農地の集約などにより、耕作面積は維持されています。このため、法人や認定農業者等を支援し、地域全体で農地の最適利用を進める必要があります。また、安曇野の田園風景は市の財産であるという認識のもと、市民全体で農地を保全していく必要があります。</p>	<p>2nd. 多様な就農スタイルを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 比較的小規模な農地については、多様な農業者として、定年帰農者の確保や、半農半 X などの推進により、農業の活性化、遊休農地の活用を図ります。 市民が様々な形で農業に関わる機会を創出し、農業関係人口の拡大を図ります。
<p>○ 農地の多面的機能に期待</p> <p>農地は、農業が営まれることにより、水源涵養など多面的な機能を発揮します。農地や農業用水などの農業基盤や農村環境の保全を図るため、地域住民などが主体となる地域ぐるみの活動が求められています。</p>	<p>3rd. 多面的機能の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 多面的機能支払交付金事業により、活動組織が農地や水路、農道の保全活動や老朽化した農業用施設の維持補修、更新工事の促進を図ります。また、地域住民などが主体となる地域ぐるみの活動を支援します。 農地や水路、農道が保全を目的に、農業用施設の維持補修と更新工事を行います。 各活動組織が活動を継続できるように啓発を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
新規就農者数	11 (R4)	10 (R9)	
市民農園数	10 (R4)	10 (R9)	
事業継続の活動組織数（組織）	57 (R3)	57 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野
 の持続

・ 移住して就農を目指す方や半農半 X など多様な就農スタイルを支援することで、安曇野の農業の担い手を確保します。

2-2 生産振興と販売力の強化

農家の生産活動を支援するとともに、農産物や加工品の販路拡大やブランド化を図ることで、農家が稼げる支援を行います。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 農業産出額が上昇する一方で、国内市場は縮小</p> <p>現在、兼業・零細農家等を含め高齢化などの事情により、農業に従事する人口が急減しています。後継者候補がいても、収益性の低さや負担の大きさといった理由から、経営規模が小さくなるほど後継者に農業を継がせることが難しい状況にあります。</p>	<p>1st. 農産物の生産の維持と質の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域全体の生産活動を維持していくため、生産の技術的課題の解決に取り組みます。 ・ 支援窓口を充実させるとともに、地域振興作物の栽培促進、省力化作物・栽培の導入を通じて地域全体の生産活動を支援します。
<p>○ 農業産出額が上昇する一方で、国内市場は縮小</p> <p>農家が減少する一方で、農地の集約などにより、耕作面積は維持されています。このため、法人や認定農業者等を支援し、地域全体で農地の最適利用を進める必要があります。また、安曇野の田園風景は市の財産であるという認識のもと、市民全体で農地を保全していく必要があります。</p>	<p>2nd. 販路拡大とブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的小規模な農地については、多様な農業者として、定年帰農者の確保や、半農半 X などの推進により、農業の活性化、遊休農地の活用を図ります。 ・ 市民が様々な形で農業に関わる機会を創出することで、農業関係人口の拡大を図ります。
<p>○ 直売所への出荷実農家の減少が懸念</p> <p>直売所の利用者数や売上高は、やや上昇傾向にある一方で、出荷実農家数(生産者)は横ばいが続いています。</p> <p>今後は、高齢化などにより、出荷実農家数(生産者)の減少が懸念されます。直売所が安定して経営していくためには、いかに農産物の販売量・流通量を確保するかが重要です。</p>	<p>3rd. 農産物直売所の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地産地消を拡大していくために、直売所の魅力向上に取り組みます。 ・ 直売所からの情報発信を促進するとともに、直売所同士の連携を促し、商材確保などの課題解決を推進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
通販サイト出展支援件数（件）	10（R3）	15（R9）	
首都圏等 PR 事業の開催（回）	2（R3）	4（R9）	
わさびの売上額（千円）	3,650（R2）	3,760（R8）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続	・ 地域の直売所と連携し、農産物の地産地消を促進することで、地元の新鮮な農産物が手に入る環境を市内外に向けて PR していきます。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 海外販路の開拓を行い、地域の農産物を安曇野ブランドとして育成・発信していきます。

2-3 森林の保全と資源の活用促進

森林に求められる多面的機能を発揮させるため、適切な森林の管理と、森林資源の有効活用を推進することで、持続可能な森林づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 持続可能な森林管理が求められる</p> <p>森林には Co2 の吸収、木材利用による炭素固定が求められており、ゼロカーボンを進めるうえで、森林が発揮する機能は大きな役割を持っています。</p> <p>市内の民有林における人工林のうち、概ね 50 年生を超えた森林は、全体の8割以上を占めています。</p> <p>その多くの木材は成熟しており、利用時期を迎えています。この森林を「伐って、利用して、植える」という持続可能な循環利用を確立することが求められています。</p>	<p>1st. 森林整備の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林経営管理制度により、未整備森林の森林整備を促進し、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、持続可能な森林管理を推進します。 利用時期を迎えている森林の伐採を、公共施設等の木材利用と合わせ計画的に実施し、これにより、木材利用による炭素固定を図ります。 また、伐採後の植林を実施することで、森林の若返を図り、森林による Co2 の吸収を増加させます。
<p>○ 放置される森林が増加</p> <p>森林の中の人里近くに広がる里山は、かつて、私たちが生活するうえで大切な資源採取の場所でありました。</p> <p>生活様式の変化により森林の利用が減り、放置された森林が増加した結果、様々な問題が生じています。この問題を解決するには多くの人が森林に関心を持つことが必要です。</p>	<p>2nd. 里山再生計画「さとぷろ。」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次里山再生計画により、多くの市民の皆さんが里山に関心を持つための取組を実施します。 さとぷろ。の活動を多くの市民の皆さんに知っていただくため、SNS 等での発信、「さとぷろ。サポーター」の登録による情報発信を推進します。
<p>○ 有害鳥獣による農作物被害が増加</p> <p>有害鳥獣被害は拡大傾向にあり、農作物の被害の他、サルによる家屋への浸入など人的被害も増加しています。山際における里山の放置により、動物と人間との緊張関係が失われ、野生鳥獣の生息域が里地まで広がったことが考えられます。</p> <p>また、捕獲の担い手である狩猟者の減少と高齢化が顕著であり、狩猟者確保は大きな課題となっています。</p>	<p>3rd. 有害鳥獣対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> サル被害対策として、GPS によりサルの行動範囲を把握し、地元と連携した追払い等を推進します。 里地に有害獣が出没しにくい緩衝帯整備の実施を推進します。 有害鳥獣対策の従事者の確保をするため、狩猟免許取得者の支援を推進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
森林経営管理制度取組面積（ha）	123（R3）	600（R9）	意向調査実施面積
さとぷろ。サポーター数（人）	309（R3）	550（R9）	
新規狩猟登録者数（人）	8（R3）	50（R9）	5年間の累計

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

アウトドア・シティの
形成

・安曇野市里山再生計画「さとぷろ。」による魅力発見プロジェクトを実施し、里山での自然観察やトレッキングなどを開催します。

2-4 商工業の振興

商店街の活性化によりで市民に魅力あるまちづくりにつなげるとともに、高い技術力で持続的に成長するものづくり産業の実現を目指します

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 商店街の衰退</p> <p>一部で移住者等による新規創業の動きがあります。駐車場を併設した大型店舗の幹線道路沿いへの進出により、商店街にシャッターを下ろした店舗が目立ちます。</p> <p>商店街に近接する観光集客施設との連携により人の流れを呼び込み、商店街の活性化を図る必要があります。</p> <p>コロナ禍で消費が落ち込み、飲食店を中心に商業全体が多大なダメージを受けています。</p>	<p>1st. 観光集客施設との連携による商店街の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光集客施設への人の流れを商店街に呼び込むため、市観光協会や市商工会と一体となった誘客活動に取り組みます。 商店街にある空き店舗等を活用した新規事業(起業)を支援します。 国、県の交付金等を活用し、商業事業者のコロナ禍からの立ち直りを支援します。
<p>○ ものづくり企業の成長</p> <p>地域外から仕事を獲得し市内企業へ展開するような、地域の牽引企業が少しずつ進出してきています。</p> <p>企業の成長を後押しできるような個別支援(伴走型支援)の体制を整える必要があります。</p> <p>産業団地の区画が埋まっているため、新たな産業団地を造成する必要があります。</p>	<p>2nd. ものづくり企業支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援機関等と伴走型支援体制を構築し、市内企業の課題設定から課題解決までを伴走型支援します。 新たな産業団地の造成等企業立地に対する支援を行い、市内企業の流出を防ぎ新たな企業を誘致します。 地域を牽引する企業に対する生産設備導入に対する補助を行います。
<p>○ 企業間連携の不足</p> <p>地域内における企業ネットワークが構築できておらず、連携による新たな製品・サービスの開発ができていません。</p>	<p>3rd. 企業間連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内企業同士のネットワーク構築のための情報交換の機会を新設します。 企業間連携による新商品・新技術の開発及び新サービスの提供に対して補助を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
商業事業所数（事業所）	717(R3)	700(R8)	
工業事業所数（事業所）	346 (R3)	340 (R9)	経済センサス
新規起業者数（人）	10 (R3)	11 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野
の持続

・ 産業振興による雇用の創出に努め、安曇野の発展を推進します。

アウトドア・シティの
形成

・ アウトドア関連企業の誘致に努め、産業面からアウトドア・シティの推進を図ります。

2-5 市内事業者の経営強化

DX や SDGs といった産業の新しい取り組みへの対応や新製品・新技術開発支援、展示会への出展支援等を通じて市内事業者の経営強化を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 新たな取組の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT の利活用による効率的な生産体制や流通・販売面での合理化が推進されていません。 ・一部の市内企業では、DX 推進によるビジネスモデル変更の動きがみられますが、多くの企業で取り組みが進んでおらず、生産性の向上や新商品・サービスの創出が進んでいません。 	<p>1st. 事業創出・生産性向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 導入促進に資するようなセミナーを開催します。 ・ DX によるビジネスモデル変革の先進事例を紹介し取組を促します。 ・ DX 推進に資するような補助事業の実施を図ります。
<p>○ SDGs導入の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社の経営方針や事業計画等に SDGsの考え方を反映させている企業が増えています。 ・一部企業では自社ブランディングや新製品の販売に活用しています。 	<p>2nd. SDGsの更なる浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs取組事例を広く紹介するとともに、SDGs導入プロセス研修会を開催し、取組の進んでいない企業に対して導入の必要性を説明します。 ・ 関係機関と連携し、SDGs導入に向けた相談窓口を設置できるように調整します
<p>○ 企業の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新製品・新技術開発を進める企業や既存製品の付加価値化に取り組み、売り上げ増や利益増を目指す企業が増えています。 	<p>3rd. 新製品・新技術開発及び新分野進出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内企業が新製品や新技術を開発する際、または新分野進出を目指す場合に、支援機関等と伴走型支援を実施します。 ・ 新製品・新技術開発に係る費用に対して補助します。
<p>○ PRの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会出展企業に対する補助を実施し、新たな顧客獲得を目指す企業を支援しています。しかし、展示会に出展しても新規顧客を獲得できない企業もあり、PR強化に課題があります。 	<p>4th. 技術・商品等のPR強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内企業が展示会等へ出展した際に製品やサービスを来場者に訴求できるようにプレゼンテーション能力向上を支援するため、外部講師を招いてのプレゼンテーション講座を開催します。 ・ 全国規模の展示会出展や訪問の際に、専門家によるアテンド支援を実施します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
製造品出荷額等（億円）	3,983(R3)	4,000 (R9)	
新技術・新製品の件数（件）	3 (R3)	5 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野
の持続

・ 市内事業者の経営強化を図り、雇用を創出することで、安曇野の発展を推進します。

2-6 地域独自の観光資源の活用

本市が誇る観光資源の磨き上げと活用を図り、観光客の受入体制整備を強化することで、国内外の観光客の満足度向上を図ります。また、生活と調和した観光を推進し、市民の豊かさにつなげます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 観光消費額の増加が課題</p> <p>持続可能な観光を進めるために、観光客による消費を地域産業へと波及させる仕組みづくりが重要です。</p> <p>安曇野独自の地域資源を活用した付加価値の高い体験型観光の充実や、食の魅力向上や観光特産品開発による、観光消費額の増加を図ることが必要です。</p>	<p>1st. 地域資源の磨き上げと活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 天蚕や東山ロングトレイルなど、新たな観光資源となりうる原石を磨き上げ、観光商品化を目指します。 体験や地域資源の組み合わせによる新たな魅力創出や高付加価値化を図ることで、観光消費と観光地としての安曇野ブランドの向上を図ります。 温泉の活用を図るため、市内温泉施設の連携強化や、市営宿泊施設の有効活用策を検討します。 食の魅力発信につながる地元食材を活用した新たなメニュー開発や土産品の開発支援や販売促進を行います。
<p>○ 二次交通等の整備が課題</p> <p>観光の移動手段の多くがマイカー利用で、交通の不便さが顕在化し、結果的に滞在時間の短さにも影響を与えています。</p> <p>このため、長時間・長期滞在型観光に寄与する今後の二次交通の整備が求められます。</p>	<p>2nd. 受入体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光の移動手段の利便性向上を図るため、交通事業者等と連携し、新たな二次交通の検討やシェアサイクルの利用促進、観光客向けの駐車場の利用改善などを行います。 外国人観光客に対応するため、地域通訳案内士の活用や、観光案内版の一元化と多言語表示、ピクトグラム統一などを進め、すべての人が楽しめる観光地づくりを推進します。
<p>○ 来訪者満足度の向上が重要</p> <p>市民が温かく観光客を迎え入れ、市民と国内外からの観光客との交流を深めることで、観光の質を高めます。市民、観光客、事業者の満足度を向上させることは、市内の経済効果の波及にも寄与</p>	<p>3rd. 観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規事業者への創業支援や、観光誘客をさらに推進するための専門人材など、マネジメント・マーケティング能力を有する観光プロフェッショナル人材の登用・育成をします。

<p>することから、市内観光の満足度向上により市民の豊かな暮らしにつなげていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官連携による観光ガイド育成講座の開設や、地域での雇用創出や創業を促すための、観光ガイド斡旋組織を設立し受入の仕組みづくりを行います。 ・ 学校での観光学習の機会創出や市民向けおもてなし講習会などにより、地域を挙げた観光ホスピタリティの定着を図ります、
<p>○ 社会経済情勢の変化への的確な対応</p> <p>当面は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、感染症によるニーズの変化を捉えた国内・県内観光の需要獲得が求められます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンド需要の回復を見越して、ウィズコロナ・ポストコロナに対応した持続可能な観光地経営が求められます。</p>	<p>4th. 持続可能な観光地の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的な観光振興を進めるため、観光地ブランドの確立、観光DX、サステナブルツーリズムの推進を図ります。 ・ 観光地経営の視点に立った観光推進組織の体制強化や、BCP 対策の強化、新たな旅行ニーズへの対応、農水産物等の域内調達といった市内観光事業者の事業継続等に向けた支援を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
観光消費額（億円）	67 (R2)	120 (R8)	
来訪者満足度（%）	82 (R3)	82 (R9)	大変満足、満足を合算した割合
山岳遭難発生件数（件）	22 (R3)	20 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

AZUMINO ブランドの 世界発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野の多様な歴史・伝統・文化を踏まえた観光地ストーリーを構築することで観光地ブランドを確立し、世界に発信するとともに、市民のアイデンティティや誇りの醸成を図ります。 ・ 天蚕の希少価値を高め安曇野ブランドとして国内外に発信します。
文化・芸術中核都市の 実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入
アウトドア・シティの 形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する取組・事業等を記入 ・ 関連する取組・事業等を記入

調整用ページ

2-7 アウトドア・スポーツを核としたまちづくり

自然環境を活かしたスポーツ施設を市外や県外にも PR するとともに、観光事業や宿泊施設とも連携を図ることで、多くの人々の施設利用と来訪を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ スポーツイベントの開催</p> <p>毎年6月に開催している信州安曇野ハーフマラソンには、およそ 6,000 人が参加しています。</p> <p>そのうち、約半数(R4 実績:2,767 人)が県外からの参加者ですが、宿泊者は約 20%となっています。</p> <p>県外からの参加者ができるだけ安曇野市に滞在してもらえるよう、宿泊施設等と連携する必要があります。</p>	<p>1st. 宿泊施設等と連携したイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の宿泊施設等と連携を図り、滞在型観光の推進を図ります。 ハーフマラソンの開催を通じて、参加者、市民、来訪者等の交流を深めるとともに、安曇野市の美しい景色や環境を参加者に PR します。
<p>○ 自然体験型スポーツ施設の活用</p> <p>市内における自然体験型スポーツ施設は、前川のカヌースラロームコース、犀川のラフティング、長峰山のスカイスポーツのほか、トレッキングコースや登山道があります。</p> <p>また、令和2年度から令和3年度にかけてサイクリングコースを設定し、令和4年度には堀金地域にマウンテンバイクコースがオープンしました。</p> <p>今後は、安曇野市の強みでもある自然体験型スポーツを、より多くの人々に知ってもらうための積極的な広報宣伝活動が必要となります。</p>	<p>2nd. 自然体験型スポーツ施設の PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内に事業所を有する事業者や地域団体と連携し、安曇野市の特徴を活かした自然体験型スポーツを全国に PR することで、多くの来訪者を呼び込みます。 関係団体と連携して大会やイベント等を開催します。 市内の宿泊施設等とも連携し、自然体験型スポーツの普及と推進を図ります。
<p>○ 総合体育館を拠点とした施設の活用</p> <p>総合的スポーツ施設の拠点となる総合体育館が、令和3年度にオープンしました。</p> <p>健康推進に向けた施設の利用促進とともに、スポーツを通じた交流活動を、より効果的に導くためにも、総合体育館を拠点に既存施設と合わせた活用法を検討する必要があります。</p>	<p>3rd. 施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合体育館を活かした新たなスポーツイベント等を開催します。 既存施設の利用状況を確認し、総合体育館を拠点とした施設の活用法を検討します。 利用者のニーズを把握し、実業団やクラブ部活動の合宿等を誘致します。 社会体育施設を有効活用するため、市内の宿泊業者等と連携し、受け入れ可能な宿泊施設を確保します。

<p>○ 各種団体との連携</p> <p>2024年にはパリオリンピック、2028年には長野国体が開催される予定であり、大規模なスポーツイベントは、様々な人同士の交流や絆を生み出します。</p> <p>このような機会を好機と捉え、市民や関係団体が連携して様々な交流の促進につなげることが重要です。</p>	<p>4th. 各種連携やトップアスリートとの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オーストリアの関係者等とも交流を深め、カヌー競技の普及と国際交流を推進します。 ・ 長野国体の運営等を通じて、様々な人と交流を深めます。 ・ 各種団体等と連携して、トップアスリートと交流することができる機会を拡充します。
--	--



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
ハーフマラソンの参加者数（人）	5,700 (R3)	6,000 (R9)	
県外からのハーフマラソン参加者の宿泊者数（人）	2,700 (R3)	3,000 (R9)	
自然体験型スポーツのイベント等への参加者数（人）	30 (R3)	120 (R9)	
集客を目的とした競技スポーツイベントの開催数（回）	1回/年 (R3)	2回/年 (R9)	
市内体育施設へのスポーツ合宿等の誘致団体数（団体）	0 (R3)	3団体 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

AZUMINO ブランドの世界発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野が有するアウトドア・スポーツ環境を国内外に発信することで、アウトドア・スポーツを安曇野の新たな価値として位置づけます。
アウトドア・シティの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登山やトレッキング、キャンプ、グランピング、サイクリングコース、マウンテンバイクコース、カヌースラロームコースなどを生かすことで、関係人口の創出やアウトドア関連産業の振興を図り、アウトドアを切り口としたまちづくりを推進します。

2-8 戦略的な観光プロモーション

本市の魅力を発信するイベントの開催、広域・各団体連携による関係人口創出や交流人口拡大を図ります。また、今後の観光需要を捉えた戦略的な観光プロモーションを展開し国内外の観光客の誘客及び滞在時間の延伸を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ リピーターの獲得が課題</p> <p>旅行前から旅行後まで一貫したプロモーションにより、旅の満足度向上と安曇野市への再来訪を促し、コアな安曇野ファンの獲得を図る必要があります。</p>	<p>1st. 関係人口の創出と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市町村との広域連携や友好都市との交流強化、信州まつもと空港の利用促進、都市部からの企業旅行誘致、リゾートテレワークの推進などにより誘客に取り組みます。 ・ Web、SNSなどデジタル媒体の積極的な活用、コアな安曇野ファンなどから来訪者に共感を生む情報発信の仕組みづくりに取り組みます。 ・ 観光DX推進を図り、新たな技術・方法を活用し、旅行前から旅行後までマーケティング戦略に沿った効果的・効率的な情報発信に取り組みます。 ・ 安曇野を舞台にしたドラマ・映画・アニメを誘致・支援するフィルムコミッションの機能を充実させ、メディア掲出による市の認知度向上につなげ、安曇野ファンの拡大を図ります。
<p>○ 滞在時間の短さが課題</p> <p>月別の利用者動向を見ると、冬季間の利用ができない山岳系の観光を除き、おおむね通年で観光利用がされていて、特に春から夏、秋にかけて比較的高い観光需要と長い観光利用期間を有しています。</p> <p>一方で、主な滞在・滞留動向が国道やJR大系線など南北の主要交通軸に沿っていることから、市内観光地を複数巡る周遊観光が少ない傾向があり、滞在時間の短さが課題となっています。</p>	<p>2nd. 観光交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時季を捉えた観光キャンペーンや特典付与などにより、市内の回遊性を高め、満足度向上や再来訪を促す取組を行います。 ・ 信州安曇野ハーフマラソンや、安曇野花火などの満足度向上やコアな安曇野ファンに向けたイベントの開催、将来の観光需要を見据え、e スポーツ大会など若い世代を対象にした新たなイベントなどの誘致・開催を目指します。

<p>○ 通過型観光から滞在型観光への転換が課題</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響でコロナ禍においては一様に宿泊者数が減少しました。また、コロナ禍前より市内の延べ宿泊者数は平成25年に遡って見ても総じて減少傾向にあります。その要因の1つに主要な需要元である東京都からの宿泊者数の減少傾向が大きく、これが全体にも大きく影響を及ぼして東京都民の宿泊離れが顕在化しています。</p> <p>一方で、宿泊者は2、3泊程度の複数泊が主となっており(6割以上)、宿泊者を見ると短期滞在ではなく、周遊など一定の滞在需要があることが特徴です。</p> <p>今後は、本市の特徴を踏まえたプロモーションを展開し、通過型観光から滞在型観光への転換が求められます。</p> <p>○ 恵まれた文化・芸術環境</p> <p>安曇野市・松川村・池田町・大町市・白馬村には、多くの美術館が林立しており、「安曇野アートライン」の活動が続いています。広域で安曇野の美術館の魅力を発信してきました。</p> <p>市内の美術館・博物館の連携事業の実施のほか、コロナ禍により減少した観光客が、施設を周遊するきっかけとするため、大北地域の文化施設等とも協力し「あづみのミュージアムカード」の配布を行っています。</p>	<p>3rd. 新しい時代の滞在型観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野を核とした広域での観光資源の活用や、アフターコロナで個人化、分散化など新たな旅のスタイルに対応した、新たな体験・自転車周遊などによる滞在型ツーリズムを振興します。 ・ 北アルプスや低山、河川など市内の豊かな自然や国営公園などを活かしたネイチャー・ツーリズムを展開します。 ・ アウトドアスポーツの聖地化を目指した取組と連携し、世界的な観光ニーズに対応できる安曇野の自然・アクティビティ・異文化体験を含んだアドベンチャートラベルを推進します。 <p>4th. 観光×文化による相乗効果を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野アートラインの美術館と協力し、「ナイトミュージアム」や「安曇野アートライン展」など、安曇野の美術館を巡る取り組みを行います。 ・ 市内の美術館・博物館が連携して、各施設の周遊を図る「ギャラリートークリレー」を実施します。 ・ 市内のアーティスト・芸術作家との連携や安曇野の美術館・博物館を活かしたアート・ツーリズムを展開します。 ・ 東京藝術大学によるアーティスト・イン・レジデンスの実施など、安曇野から新しいアートを発信する取り組みを進めます。
--	--



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
観光地利用者延数（百人）	29,074 (R2)	52,000 (R8)	
日帰り客数（百人）	23,098 (R2)	40,600 (R8)	
宿泊延数（百人）	5,976 (R2)	11,400 (R8)	
外国人延宿泊者数（人）	1,050 (R2)	20,000 (R8)	
50歳未満の再来訪率（%）	73 (R3)	73 (R9)	
美術館・博物館等が連携して行う周遊事業の件数	3 (R3)	5 (R9)	ミュージアムカード。ギャラリートークリレー、オンライントークなど

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野ハーフマラソンをはじめとした各種イベントの開催と併せ、市内の周遊を促すイベントを展開します。 都市部企業の研修旅行やシンポジウムの企画・誘致や、リゾートテレワークの利用促進を進めます。
AZUMINO ブランドの世界発信	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊かで安曇野市独自の観光資源を活用したネイチャー・ツーリズム、アドベンチャートラベルを展開します。
文化・芸術中核都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野市の美術館・博物館を活かしたアート・ツーリズムを展開します。 安曇野を舞台にしたドラマ・映画・アニメを誘致・支援するフィルムコミッション機能を充実させます。 eスポーツなど新規イベントの誘致・開催を目指します。 安曇野アートライン推進協議会への協力 アーティスト・イン・レジデンスの実施による現代アーティストの作品展示の開催
アウトドア・シティの形成	<ul style="list-style-type: none"> アウトドア産業と連携を図りながら安曇野のアウトドアの聖地化を進めます。 サイクリング周遊・滞在型ツーリズムなど新たな滞在型ツーリズムの振興を図ります。

調整用ページ

2-9 就労の促進、多様な働き方への支援

雇用創出や勤労者の支援に加え、コワーキングスペースの整備やリゾートテレワークの推進といった新たな取組により、多様な働き方への支援を行います。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 企業と人材のマッチングが求められる</p> <p>ふるさとハローワークを運営して就労に困っている市民の就労支援を実施しています。</p> <p>専門的な個別支援を必要とする市民への対応が課題です。</p> <p>多くの企業で人材確保に向けた活動を行っていますが、求める人材の確保には至っていない企業もあります。</p>	<p>1st. 就労に関する相談やマッチングを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門機関による就労支援や労働相談の機会を設けます。 ・ 移住者の就労マッチングを推進します。 ・ 合同就職説明会の開催及び関係機関と連携した参加促進を行います。 ・ 障がい者や高齢者の就労について、関係施設や機関と連携し、雇用の創出を図ります。
<p>○ コワーキングスペースの取組</p> <p>一部の民間事業者が小規模のコワーキングスペースに取り組んでいます。多様な職種に関わる人が同じ空間で仕事をすることで新たな発想や連携が生まれることが期待されています。</p>	<p>2nd. コワーキングスペースの整備と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家を活用したコワーキングスペースの整備を通じて新たな就労形態を目指します。 ・ 空き家をリノベーションしてコワーキングスペースを整備する取組を支援します。
<p>○ 環境を生かしたリゾートテレワーク</p> <p>都市部の企業を中心に、豊かな自然に囲まれた当市でテレワークとアクティビティなどで休暇を楽しむリゾートテレワークが注目されています。</p> <p>リゾートテレワークにより、新たな形の企業誘致につなげられることが期待されています。</p>	<p>3rd. リゾートテレワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内コンテンツを活用したモデルプランの造成を行うとともに、テレワークに必要な体制・施設の整備を検討します。 ・ 市内宿泊施設と連携したリゾートテレワークを実施し、新たな企業の進出や多様な働き方につなげていきます。
<p>○ 市内建設業に係る技術者の担い手不足</p> <p>市内建設業者はインフラ整備や施設の建設など、快適な生活に必要不可欠な存在です。</p> <p>また、災害時の応急工事、復旧工事等への対応や除雪作業など、建設業者は市民の安全・安心な暮らしを支える存在でもあります。</p> <p>しかし、建設業界では、技術者等の担い手が減少しており、憂慮すべき課題となっています。</p>	<p>4th. 市内建設業に係る技術者の人材育成</p> <p>市では、市内建設業の安定した人材確保や雇用創出、受注機会の増加や工事の品質向上を目的、従業員が取得する国家資格取得費用について、補助を行っています。</p> <p>今後は、実績や効果の検証を行い、本制度の継続について検討を行います。</p>



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
空き家を活用したコワーキングスペースの整備と運営（件）	0（R3）	5（R9）	累計値
リゾートテレワークを契機として市内に進出する企業（社）	0（R3）	2（R9）	累計値

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者や高齢者、外国人の就労をサポートする関係機関・事業者と連携することで、すべての人がやりがいを感じて、能力を発揮できる労働環境を整備します。
選ばれるまち安曇野 の持続	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい環境を整備することにより、安曇野で働くことを選ぶ人を増やします。 コワーキングスペースやリゾートテレワークといった新たな働き方を推進し、安曇野で働くテレワーカーの創出を図ります。

2-10 起業・事業承継の支援

起業や副（複）業のニーズに対応した支援を実施するとともに、雇用や技術を次世代へと繋ぎ、成長を進めるための取組を行っていきます

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 起業・副（複）業を目指す人の増加</p> <p>自身のスキルやアイデアを基に起業を考える人やコロナ禍で先行きに不安を抱く人が起業や副（複）業を目指す傾向が強まっています。</p>	<p>1st. 起業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創業実現セミナー・ミニ創業実現セミナーによって、起業を目指す人の支援を実施します。 ・ 産業支援コーディネーターによる創業後の定期的なフォローアップによって、個別支援を行います。
<p>○ 人材育成の遅れ</p> <p>自社の経営や製造現場で主力となる人材の育成が進んでおらず、自社の事業を引き継ぐ環境が整っていない企業があります。</p>	<p>2nd. 企業の次世代を担う人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営力や技術力・デザイン力といった企業を支える力を持つ次世代を担う人材の育成を支援します。 ・ 次世代経営者育成塾の実施による後継者の育成支援を実施します。
<p>○ 潜在的労働力の増加</p> <p>市の人口は減少していますが、65歳以上の人口は増加傾向にあり、今後もこの傾向が続くと推計されています。</p> <p>子育て中の方が、子育ての合間で働くなど、多様な働き方が広まっています。</p>	<p>3rd. 潜在労働力の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て中の方や外国人・シニア層などの潜在的労働力を掘り起こし、人材が不足している企業での活用を推進します。 ・ 企業における多様な人材の受入環境整備に向けた情報提供を実施します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
起業者数（人）	0（R3）	累計 5（R9）	
相談による事業承継の実現数（件）	0（R3）	累計 5（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野
の持続

・ 産業振興による販わいや雇用を創出することにより、安曇野で働くことを選ぶ人を増やします。

3-1 防災・減災対策の推進

防災・減災対策の充実を図り、災害等の被害を最小限に抑え、誰もが安全に安心して暮らすことができるまちをつくりまします。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 災害に強いまちづくりの推進</p> <p>台風や異常気象による集中豪雨や、糸魚川ー静岡構造線断層帯などを震源とする地震などの自然災害に備え、地域防災力の向上が求められています。</p> <p>一人一人が防災意識を高め、「自助・共助・公助」による防災体制を充実させ、災害に強いまちづくりを進めます。</p>	<p>1st. 地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自助・共助の意識を醸成するため、出前講座の実施や災害対策に関する情報を積極的に提供し、自主防災組織に必要な支援をします。 ○ 実践的な防災訓練の実施と防災講演会の開催を通じて、市民の防災意識の高揚を図ります。 ○ あらゆる状況を想定した災害対応訓練を定期的実施することで、職員の意識向上と災害対応力の強化を図ります。 ○ 災害発生に備え関係機関との協定締結等を進め、連携強化を図ります。
<p>○ 防災用品等の備蓄推進</p> <p>災害発生後は、72 時間分の食料、飲料水、日用品等の物資の確保が重要となります。ただし、市が実施する備蓄品の整備には限界があることや、現状では備蓄目標数に達していない備蓄品目もあることから、個人による備蓄も呼び掛けていく必要があります。</p>	<p>2nd. 備蓄品の計画的な購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所の開設等に使用する資機材、食料品等の備蓄を「安曇野市における避難者等に提供する備蓄の考え方」により、計画的に進めていきます。 ○ 自主防災組織や市民に対し、各家庭で実施できる、ローリングストック(食料品等を使い切った分だけ補充する)への呼びかけを進めていきます。
<p>○ 災害の激甚化や異常気象の常態化</p> <p>近年、全国各地で災害をもたらす豪雨は、局地化、激甚化し、異常気象が常態化しており、それに伴い河川氾濫や土砂災害が発生しています。</p> <p>しかし、長野県内では2万箇所を超える土砂災害危険箇所があり、堰堤等のハード対策の他、ソフト対策も含め対応が必要です。</p>	<p>3rd. ハード・ソフト両面からの対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害危険箇所について、堰堤や崩壊土砂防止柵等の設置を県に要望していきます。 ・ 自分が住んでいる地域の危険箇所を把握し、住民一人ひとりが、いざという時に取るべき行動を理解し、備えておくことが大切です。このため、地域ごとの特性に応じた自主避難計画作成を県と共に支援します。
<p>○ 住宅の耐震化の重要性</p> <p>平成 7 年に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡</p>	<p>4th. 積極的な情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安曇野市住宅耐震化緊急促進アクションプ

<p>路大震災)では、就寝時間帯であったことも影響し、直接的被害で亡くなった約5,500人の約9割が住宅など建築物や家具等の倒壊による圧迫死(焼死を除く)でした。</p> <p>このことから、住宅の耐震化は、震災発生時において人命保持に直結した課題となっています。</p>	<p>ログラム」に基づき、耐震化の重要性や補助制度について、広報紙や市HPのほか、対象者へダイレクトメールで情報提供します。</p>
<p>○ 耐震改修の実施が肝要</p> <p>耐震診断を実施した方が耐震改修の実施まで踏み込めない現状があります。主な要因は、多額の工事費の負担に加え、高齢化(若年層の不在)も関係していると考えられます。</p> <p>また、耐震改修に対して高額なイメージを持ち、設計の実施に至らないケースもあります。</p>	<p>5th. 耐震改修工事費の目安の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事費については、低コスト工法の普及に伴い、価格幅が拡大しています。全国的な工事費の状況や目安について国が提示している資料を、市HPを通じて入手できるようにします。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
避難所として活用する民間施設 (施設数)	6 (R4)	11 (R9)	
アルファ米の備蓄率 (%)	100 (R3)	100 (R9)	「安曇野市における避難者等に提供する備蓄の考え方」による備蓄率
土砂災害危険箇所存在区における避難体制づくりの取り組み率 (%)	30.3 (R3)	45.5 (R9)	
耐震診断戸数	1,068 (R3)	1,168 (R8)	戸建住宅
耐震改修戸数	187 (R3)	237 (R8)	戸建住宅

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名(統計名)を以下に記載してください。
(希望がある場合) ⇒

誰もが活躍する まちの推進

・ 年齢、性別、障がいの有無、国籍など問わず誰もが安心して避難ができるように民間施設の活用をはじめとした避難所の拡充を図ります。

3-2 地域消防力の強化

激甚化する災害に迅速かつ的確に対応する為に、地域防災の中核である消防団の充実に努めます。また、消防施設の整備や消防機材の配備を進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 消防団員数の減少が続く</p> <p>消防団は地域防災の中核であり、災害が激甚化する中、その重要性はますます大きくなっています。</p> <p>しかし、社会構造や住民意識の変化、少子化等の影響から団員数は減少傾向が続いており、消防力の低下が懸念されます。</p>	<p>1st. 団員確保と設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団員の処遇を改善し、住民や企業に消防団への理解を深めてもらうことにより、団員の確保を図ります。 消防団詰所の統廃合を進め、効率的な出動体制を整備します。また、消防車両の更新や資器材等の適切な配備を進めます。
<p>○ 自主防災組織との連携が重要に</p> <p>市内の全区域には自主防災組織が結成されており、防災訓練等の防災活動が行われています。</p> <p>今後も、防災知識や防災に対する意識をさらに高めてもらうため、情報の提供や啓発活動を進めていく必要があります。</p>	<p>2nd. 自主防災組織の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の防災力強化のため、防災マップの普及啓発や避難所の運営方法などについて、出前講座を実施します。 全組織が地域防災計画を策定できるよう、計画作成に向けて協力を行います。 各組織の防災訓練等が計画的に実施できるよう、防災活動に対する支援を行います。
<p>○ 要配慮者に被害が集中する傾向</p> <p>高齢者や障がい者など災害時に避難支援を必要とする要配慮者に被害が集中する事例があるため、平常時からの地域での顔の見える関係づくりや、避難支援体制づくりが必要とされています。</p>	<p>3rd. 避難行動要支援者名簿の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者などの要配慮者の的確な避難支援につなげるため、避難行動要支援者名簿を整備するとともに、地域への名簿情報の提供に同意を得られた人について、名簿情報を関係機関と共有します。
<p>○ 実効性のある避難支援体制づくりが課題</p> <p>要配慮者の情報提供(避難行動要支援者名簿の提供)だけでは、実効性のある避難支援体制整備に結びつかないため、地域の实情に合わせた避難支援体制の構築が必要とされています。</p>	<p>4th. 地域での見守り体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿の情報を活用し、市社会福祉協議会とともに災害時住民支え合いマップの作成を支援することで、災害時の避難支援体制はもとより、平常時の顔の見える関係づくりの構築を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
消防団協力事業所表示制度への協力事業所数（事業所）	51 (R3)	60 (R9)	従業員の消防団活動について積極的に配慮する、或いは災害時等に資器材等を消防団に提供するなど、消防力の維持・強化に寄与する事業所数。
地域防災計画の策定数（％）	96.7 (R3)	100 (R9)	活動組織数：90 組織（R4 時点）
地区防災訓練の実施率（％）	33 (R3)	70 (R9)	
避難行動要支援者名簿提供同意率（％）	65 (R3)	70 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
まちの推進

・ 避難行動要支援者名簿の作成に努め、高齢者や障がい者などの要配慮者の的確な避難支援につなげます。

3-3 治山・治水事業の推進

自然災害などから、人命や財産を守るため、治山・治水対策に取り組み、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<ul style="list-style-type: none"> ・ 局地的な豪雨による災害の多発化 近年は、局地的豪雨が多数発生し、今まで以上に災害の危険性が高くなっています。 被害を最小限に治めるためにも、危険個所の事前の把握や治山事業による対策の強化が求められます。 	<p>1st. 治山事業の対策を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林における危険個所の把握をし、必要な個所は速やかに保安林指定を進めます。 ・ 治山関連の危険個所について、県と連携し、治山事業による対策を進めます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒廃した森林による災害の誘発 森林の荒廃は、水源涵養や土砂流出防備機能の低下を招き、災害の誘発が懸念されます。 このことから、適切な森林管理により、森林の持つ防災機能を十分に発揮させるため、森林整備の推進が求められます。 	<p>2nd. 森林の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林整備が進まない未整備森林について、所有者の意向調査を実施します。 ・ 森林経営管理制度により、市や林業事業体により、森林整備の推進を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の氾濫など、大規模災害の発生リスクが増加 近年、県内では、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨、令和3年8月豪雨といった激甚化した水害や土砂災害が頻発しています。 今後も、気候変動などの影響により、さらなる大規模災害のリスクが見込まれており、その対策は急務といえます。 また、市で管理している河川については、未改修の箇所や降雨量によっては氾濫する箇所が存在しており、ゲリラ豪雨や台風による大雨などにより、実際に被害が発生している箇所があります。 	<p>3rd. 適切な工事の実施と、国や県が行う河川整備事業の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元からの要望や降雨時の被害状況から、現地を十分把握したうえで事業化します。 ・ 測量設計業務を実施し、詳細な計画を策定します。 ・ 国、県が実施する河川整備事業の促進を図ります。また、長野県が策定した「長野県流域治水推進計画」に基づき、流域治水に取り組みます。 ・ 氾濫を防ぐため、河川内に堆積した土砂の撤去や、流れを阻害する立木の伐採などを実施し適正な維持管理に努めます。 ・ 水防活動に備え、必要な資材を確保します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
保安林指定面積（ha）	4,758（R3）	4,780（R8）	
未整備森林の整備面積（ha）	0（R3）	50（R8）	森林経営管理制度による。

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

3-4 防犯・交通安全の推進

犯罪や事故のない安全・安心なまちづくりの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 体感治安向上の必要性</p> <p>市内の刑法犯認知件数は年々減少傾向にありますが、安全・安心なまちづくり実現のために、地域の治安に不安を感じさせないための取組みを進めていく必要があります。</p>	<p>1st. ハード・ソフト両面からの犯罪抑止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の生活道路での犯罪の抑止・通行の安全を目的に、防犯灯の設置を促進します。 ・ 警察や防犯協会連合会、ボランティア、消費生活センターなどと連携し、犯罪被害防止に向けた広報・啓発活動を展開します。
<p>○ 高齢者や子どもが関与する事故が増加</p> <p>市内では、高齢者が関与する交通事故の割合が年々増加傾向にあります。</p> <p>一方で、全国では通学中の子どもが巻き込まれる交通事故が続発しており、市内でも通学路の交通安全に対する市民の関心が高まっています。</p> <p>これらの状況を踏まえ、高齢者や子どもは、特に交通事故対策を講じるべき対象と捉えられます。</p> <p>また、移動手段として近年注目が高まる自転車についても、対策が求められます。</p>	<p>2nd. 高齢者や子どもに対する交通事故対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座、交通安全教室などを開催し、高齢者の交通事故防止を図ります。 ・ 運転免許証自主返納支援制度に関する広報・啓発を行います。 ・ 子ども向けの交通安全教室を通じて、「自分の身は自分で守る」という意識の浸透を図ります。 ・ 自転車に乗車する際の正しい交通ルールに関する教育・啓発に取り組めます。
<p>○ 通学路の安全確保が社会的な問題に</p> <p>全国的に児童生徒が巻き込まれる度重なる事故の発生により通学路の安全確保は大きな社会的な課題となっています。</p> <p>毎年、各区から要望される道路等の改善要望には、歩道設置をはじめ、通学路の安全対策に関する要望も多く寄せられています。</p>	<p>3rd. 通学路安全点検とソフト対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や PTA、地域、公安、道路管理者、関係団体と連携し、毎年度継続して通学路の合同点検を実施します。点検結果は、対策の実施状況を含め市のホームページで公表します。 ・ 通学路合同点検により危険と指摘された箇所は、早期に対策を実施します。 ・ 安全対策で歩道整備など時間がかかる場合は指定通学路の変更や登下校の見守りなどソフト対策も併せて推進していきます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
刑法犯認知件数（件）	187（R3）	143（R9）	（※年間5%減少）暦年
人身交通事故発生件数（件）	302（R3）	241（R9）	暦年（現状値から20%減少）
通学路合同点検箇所の実施率	63%（R4）	68%（R9）	通学路合同点検箇所一覧（H27年度以降）

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

3-5 消費者保護の推進

消費者問題に関する啓発を通じて、巧妙・複雑化する悪質商法被害の防止や回復を図り、市民が安全に暮らせる消費生活社会の実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 悪質商法などの手口の巧妙化が進む</p> <p>近年、悪質商法や特殊詐欺の手口が巧妙化・複雑化しており、高齢者を中心とする被害が増加しています。</p> <p>消費者がトラブルに巻き込まれることを防ぐためにも、最新の手口やトラブルの事例、トラブルに遭った際の対処方法といった周知が重要になります。</p>	<p>1st. 被害やトラブルに巻き込まれやすい年代を中心とした消費者教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オレオレ詐欺などに代表される特殊詐欺対策として、対策機器の設置に関する補助金制度の周知を図り、被害の未然防止に努めます。 ・ 消費生活相談員による出前講座を開催することで、高齢者の悪質商法などに対する理解の向上を図ります。 ・ 成年年齢の引下げに伴い、契約可能な年齢が拡大されました。このため、若年層を対象に、消費生活センターに関する周知・啓発を行い、トラブル防止を図ります。
<p>○ 被害防止・被害回復への対応</p> <p>相談者の心情に配慮して一歩踏み込んだきめ細かい相談対応により、被害の未然防止や被害回復を図ることが求められています。</p>	<p>2nd. 相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な研修・勉強会へ消費生活相談員・職員を派遣し、スキルアップを図ることで、複雑・多様化する相談に対処します。 ・ 県や警察、他市町村との連携・情報収集により、広域化する悪質商法等に対応します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
消費生活講座参加数（人）	4（R3）	500（R9）	
消費者契約に対する苦情解決割合（%）	97.4（R3）	95以上（R9）	R3 消費者トラブル関係相談 546 件うち、解決（被害回復・未然防止・助言等）件数 532 件 ÷ 解決率 97.4%

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

4-1 自然環境の保全

自然とふれあい、親しみ、自然環境に対する意識を高めるとともに、健全な水環境・水循環の確保、保全を進め、持続的な魅力のある地域を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生態系の急激な変化が進む</p> <p>地球温暖化や特定外来生物の拡大などが原因で、生態系が急激に変わりつつあります。</p> <p>このため、地球温暖化対策に関する啓発活動や特定外来生物の駆除活動が必要であるとともに、生物多様性の重要性を広く知っていただくことが重要です。</p> <p>また、市では、安曇野市生物多様性アドバイザー制度により、生物多様性の維持に向けた取組みを推進しています。</p>	<p>1st. 自然環境保全活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に対する意識を高めるための取組みを推進します。 ・ 生物多様性の重要性をより認知していただくため、安曇野市版レッドデータブックを改訂します。 ・ 市民一人ひとりが環境について学び、考え、その保全を進めていくために、自然観察会を実施します。 ・ 市民、事業者、行政が一体となって、固有種の保護のために、特定外来生物の駆除活動を強化します。
<p>○ 水質汚染防止法に基づく水質基準の遵守</p> <p>安曇野市は、水や空気、自然環境といった自然環境が豊かな地域といえます。</p> <p>この貴重な環境を次世代に継承するとともに、「人と自然の共存・共生する社会」、「持続可能な水環境の形成」を図り、魅力あるまちの創出を目指すことが大切です。</p> <p>一人ひとりが自然の豊かさを再認識し、水環境保全の維持・保全に努め、意識の高揚に取り組むことが求められています。</p>	<p>2nd. 水環境保全の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水環境・水循環の確保と水質保全に取組み、 ・ 市民・団体・企業などによる水保全活動「あづみの水結」制度の輪を推進します。 ・ 水環境に関する意識啓発に努め、市民意識の高揚を図ります。 ・ 地下水の保全と涵養を図り、適正利用を促します。 ・ 地下水涵養等の取り組みが継続的なものになるように支援する社会システムの構築に向けた研究を進めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
人為的な地下水涵養量（万 m ³ ）	180（R3）	300（R9）	安曇野市水環境基本計画
地下水の硝酸性窒素基準値超過地点（か所）	0（R3）	0（R9）	（水質汚濁の環境基準） 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 ≤ 10mg/L
特定外来生物駆除活動の参加者数（人）	4,537（R3）	4,850（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続	・ 自然環境の保全を推進し、自然と暮らしの調和を図ることで、安曇野への移住・定住意向を高めます。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 水保全活動「あづみの水結」制度の推進により、「名水百選」「水の郷」に認定された清らかな水が織りなす安曇野の原風景を発信します。

4-2 循環型社会の実現

3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、ごみの減量や食品ロスの削減を図り、循環型社会の実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 3R やエシカル消費の取り組み</p> <p>マイバッグ、マイボトルの持参(リデュース)や、詰替品の購入(リユース)、資源物等の分別(リサイクル)といった3R の取り組みは、多くの市民が実施しています。</p> <p>今後は、3R の推進に加え、環境や社会等に配慮した商品の選択などエシカル消費につながるような取り組みが重要です。</p>	<p>1st. 3R やエシカル消費の意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さい頃からごみを減らすことの大切さに関心を持ってもらえるよう、小学生を対象にした環境学習会を開催します。 ・ 地域の集積場所やリサイクルセンターの利用を案内するなど、市民の利便を図ります。 ・ エシカル消費の徹底を図り、地産地消、環境マークがついた商品の選択などの啓発を行います。
<p>○ 一般廃棄物の資源化と減量が課題</p> <p>令和元年度の1人1日当たりのごみ排出量は、家庭系ごみは県内 19 市中最も少なく、事業系ごみは2番目に多くなっています。</p> <p>家庭でのごみ・資源物の分別は概ね定着していることから、今後さらなるごみの減量を進めるためには、事業者によるごみの資源化・減量化が課題です。</p>	<p>2nd. 一般廃棄物の適正な排出と資源化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック資源循環促進法に基づき、プラスチック製品の分別回収を進めます。 ・ 事業者に対し「事業系ごみ減量化・適正処理の手引き」を活用し、ごみの適正処理の周知を図ります。
<p>○ 食品ロスの発生</p> <p>食品ロスの発生原因として、家庭では「食べ忘れ」「買いすぎ」「在庫を確認せず unnecessary なものを購入」等の理由が多くを占めており、重複買いや過剰保存により食品ロスに繋がっています。</p> <p>これらを防止するためには買い物前の冷蔵庫チェックや計画的な消費活動が重要です。</p> <p>また、外食や宴会等での発生原因は「注文のし過ぎ」「量が多く食べきれなかった」等の理由によるため、食事の適正量を知り注文することや、宴会時の食べきりの取り組みが重要になります。</p>	<p>3rd. 食品ロスの発生抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの頃から「もったいない」という感覚を醸成し、環境意識の向上を図るための取組を推進します。 ・ 食品ロスに係る知識の普及を図るため、削減のポイントを記載した啓発資材を作成し、取り組みを支援します。 ・ 商工会と連携し、「残さず食べよう！30・10運動」の呼びかけを事業者へ行うなど、食品ロス削減を推進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
リサイクルセンターの利用者数（人）	53,102 (R3)	55,811 (R9)	
1人1日当たりのごみ排出量（グラム）	802 (R3)	788 (R9)	環境省「一般廃棄物処理実態調査」
家庭で「食品ロスはない」と回答した市民の割合（%）	18.4 (R3)	25.8 (R9)	市民意識調査

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続

- ・ 循環型社会の実現により、安曇野の魅力である自然環境の保全を図ります。

4-3 脱炭素社会の実現

市民・事業者・行政が一体となり、地球温暖化を防止するため、2050年ゼロカーボン達成を目指し、あらゆる必要な取組みを行っていきます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地球温暖化を招く二酸化炭素</p> <p>多くの人が市内の移動手段に自動車を利用しており、伴って多量の二酸化炭素が排出されています。また、食の多様化などに伴う食料品の輸送や輸入の過程などでも、多量の二酸化炭素が排出されています。</p> <p>これまでも、地球温暖化対策の必要性の認識はされていますが、省エネを実践した生活をさらに推進する必要があります。</p>	<p>1st. 省エネを重視した生活の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車の利用を見直す取組みを行います。また、電気自動車への乗換えを推進します。 ・ 市民・事業者・行政が一体となって、地球温暖化を緊急非常事態であることを認識し、あらゆる場面で、省エネを意識した行動ができるよう機運を高めます。
<p>○ 再生可能エネルギーのポテンシャルの見える化が課題</p> <p>ゼロカーボンを達成するためには、石油や石炭などの化石燃料ではなく、再生可能エネルギーで作られた電気を使って生活していくことが求められています。</p> <p>ただ、設置や撤去費用などが負担となり、住宅用の太陽光発電システムの設置を躊躇してしまうケースもあります。</p> <p>また、太陽光発電以外の小水力やバイオマスなどのポテンシャルを調査し、再生可能エネルギーを促進することが求められています。</p>	<p>2nd. 再生可能エネルギーの普及拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅用太陽光発電システムに加え、様々な省エネに関する補助事業を検討します。 ・ 広報、ホームページ、出前講座などで再生可能エネルギーのポテンシャル・必要性について周知します。 ・ 太陽光以外の小水力、バイオマス、地中熱などのポテンシャル、適地を調査し、再生可能エネルギーの取組みを推進します。
<p>○ スケールメリットを生かした取組みが必要</p> <p>地球温暖化対策は全世界共通の課題であり、自治体単独で出来ることには、規模や効率性の面で限界があります。</p> <p>このため、広域自治体での連携が重要となり、各地域の資源、技術、資金を活用しつつ、スケールメリットを生かした取組みを行う必要があります。</p>	<p>3rd. 広域連携した取組みの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化問題の解決に向けて、国、県、周辺自治体などとの連携を強化していきます。 ・ 国の補助事業について、広域自治体で連携した実施を検討します。 ・ 広域自治体間での電気自動車の充電スタンドの設置を検討します。 ・ 地域循環が可能となる地域新電力について、周辺自治体と協議、検討します。

<p>○ 新たな時代への対応</p> <p>ロシアのウクライナへの侵攻など、世界情勢は予断を許さず、エネルギー資源の乏しい日本では今後もエネルギーが安定して供給される保障はありません。</p> <p>地球温暖化対策に限らず、エネルギーに依存し過ぎないライフスタイルへの転換が求められています。</p>	<p>4th. 将来のまちづくり構想を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 徒歩、自転車中心のライフスタイルへの転換により健康増進の取組みを推進します。 ・ 小水力発電などはエネルギーとしてだけでなく、観光や防災などの目的で運用し、新たなまちづくりの手段とした活用を検討します。
<p>○ 環境と経済活動の両立が求められる</p> <p>気候変動が地球規模で進行する中、企業の脱炭素に向けた取組は、重要性を増しています。</p> <p>なお、比較的規模の大きな企業では脱炭素への取組に着手していますが、中規模、小規模の企業では必要性の認識はあるものの、具体的な取組には至らないことが多い現状にあります。</p> <p>このような中、いかに経済活動と脱炭素の両立を図るかが課題となっています。</p>	<p>5th. 脱炭素に向けた企業の取組みを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ向上が見込まれる生産設備の導入を支援します。 ・ 地球温暖化対策を目的としたまちづくりのため、技術革新、事業の創出などへの支援を検討します。 ・ サプライチェーンにおけるゼロカーボンの必要性に関する研修会を開催します。 ・ 市場・社会からの要請に対応した循環性の高いビジネスモデルの事例紹介を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
温室効果ガス総排出量（市所有施設）（kg-CO2）	18,267,139 (R2)	16,508,835 (R8)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

4-4 地域の特性に応じたまちづくり

安曇野の地域特性を活かし、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた持続可能なまちづくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 暮らしやすさと産業発展</p> <p>持続可能な都市を形成していくためには、社会構造の変化に対応した、メリハリのある土地利用が必要です。</p> <p>そのためには、農地や自然環境の保全、景観に配慮し、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた計画的なまちづくりが求められています。</p> <p>また、松本系魚川連絡道路(松系道路)穂高明科線が都市計画決定されるなど、当市を取り巻く環境は大きく変化しています。</p> <p>さらに、安曇野北 IC(仮称)周辺の土地利用をはじめ、当市の都市計画について情勢に応じた見直しを進める必要があります。</p>	<p>1st. 計画的なまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存産業団地周辺などにおいて、計画的な産業振興を図ります。 生活利便性向上と安全・安心なまちづくりのために、幹線道路の整備を進めます。 コンパクトで利便性の高いまちづくりを推進します。 安曇野北 IC(仮称)周辺の土地利用について、周辺住民の意向を踏まえた検討を進めます。
<p>○ 拠点地域への開発誘導が課題</p> <p>持続可能な都市づくりのためには、コンパクトシティの形成が必要です。</p> <p>一方、当市では、良好な景観等を享受できる田園地域等の郊外部への移住需要が依然として高く、コンパクトなまちづくりの推進が停滞している状況にあります。</p> <p>また、人口減少や高齢化社会が到来する中で、空き家や空き店舗が増加しています。</p>	<p>2nd. 集約重視のまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 拠点区域に商業・医療・福祉施設などを誘導することで、拠点に来れば必要なサービスを受けられる状態を作り出します。 拠点区域などに居住を誘導するとともに、空き家や既存の住宅地等が有効活用できるよう、土地利用制度の見直しに向けた検討を進めます。
<p>○ 時代の変化による新たな用途への対応</p> <p>社会構造の変化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、コワーキングスペースなどの新たな用途に対応する必要があります。</p> <p>また、急激な人口減少に伴い、空き家や空き店舗などが増加している状況から、適正な管理と利活用が課題となっています。</p>	<p>3rd. 土地利用制度の適正な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、土地利用制度の適正な運用を行い、暮らしやすさと産業発展のバランスがとれたまちづくりを進めます。 社会情勢や社会構造の変化に伴う、空き家や、空き店舗の活用や新たな用途への対応などが必要になった場合は、土地利用制度の見直しを行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
居住区域内の新築件数割合	39% (R3)	40% (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
 まちの推進

・ 山岳と田園が育むよさを大切に、暮らしやすさをみんなで共有・継承できるまちを目指し、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

選ばれるまち安曇野
 の持続

・ 今ある良好な環境を大切にしながら、暮らしやすさと産業発展のバランスを保つために、土地利用制度の適正な運用を図ります。

4-5 暮らしと調和する景観の保全

地域と調和した魅力ある景観の保全と育成に取り組み、安曇野らしい景観づくりの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 市民意識調査における景観保全の現状</p> <p>市民意識調査において、市に愛着を感じている方が、89.5%となっており、「自然環境と調和した快適な住環境が整備されている」が 66.9%と突出して高くなっています。</p> <p>また、景観保全施策に対する現状の満足度として、「満足」、「まあ満足している」と回答した人の割合が 59.1%、今後も「重要」、「やや重要」と回答した人の割合が 84.6%になっており、地域と調和がとれた景観づくりを進めていくことが必要とされています。</p>	<p>1st. 調和がとれた景観づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画の基準を守り、景観づくりガイドラインを参考とした景観づくりを進めるため、開発事業者に対する説明や助言などを行います。 ・ 屋外広告物条例で定める基準への適合や、既存不適格広告物の改善を進めるため、設置事業者に対する説明や助言などを行います。 ・ 建築物や屋外広告物のパトロールを定期的に行い、未届案件等現状の把握と適正な指導を行います。
<p>○ 景観施策に対する認知度</p> <p>令和2年1月に市民を対象にして実施した景観に関するアンケート調査では、安曇野市の景観に関心がある方は 87%と多いが、景観計画の内容を知っている方は 28%、景観条例の届出制度を知っている方は 31%と少ない状況です。</p> <p>市が取り組むべき景観施策として、景観計画等の周知が重要であるとの回答が多かったことから、景観施策に関する認知度を高めることが重要だと考えられます。</p>	<p>2nd. 景観施策の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観施策やその取り組みについて、積極的に情報発信を行い、景観形成に対する市民や事業者の意識を醸成します。
<p>○ 住宅地における緑化について</p> <p>新興住宅地では、古い集落に接して色彩や形状など周囲と異なる印象を与える形態の建物や壁面が目立ち、外周に緑のない住宅も散見されます。</p> <p>住宅地の緑化推進は、良好な景観を保全・育成する上で必要と考え、住宅地の緑化率の推奨基準を設定し緑化の推進を行っています。</p>	<p>3rd. 住宅地の緑化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観づくりガイドラインに沿った緑化の推進及び意識の高揚を図るため、緑化に関する補助及び情報発信を行い、緑のまちづくりを支える体制を整備します。

<p>○ 景観づくり住民協定の現状</p> <p>景観づくり住民協定は現在 25 箇所で開催されており、協定地域の景観の保全について活動を行っています。</p> <p>しかし、少子高齢化による組織員の固定化等で担い手不足が顕在化しており、活動の継続的な支援が必要とされています。</p>	<p>4th. 景観づくりの活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観づくり住民協定を締結した組織の継続を支援するため、団体間の情報共有と交流を促進し、組織の活性化や活動の拡充を図ります。 ・ 景観づくり住民協定を支援するため、景観条例及び景観づくり推進地区等の制度の活用について、情報発信を行います。
---	---



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
景観パトロールの回数(回)	24 (R3)	36 (R9)	
景観に関する広報及び講座の開催(回)	6 (R3)	12 (R9)	
生垣設置補助の申請件数(件)	28 (R3)	43 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。

（希望がある場合）

⇒安曇野市景観計画

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>誰もが活躍する まちの推進</p>	<p>・ 景観づくりに関して、景観住民協定や景観整備機構等のさまざまなパートナーシップを奨励・推進します。</p>
<p>選ばれるまち安曇野 の持続</p>	<p>・ 景観条例に基づく届出(通知)制度による誘導を通じて、良好な景観形成を図り、安曇野の価値を高めます。</p>

4-6 道路整備の推進

道路や橋の整備と老朽化対策を行い、利便性や安全性が確保された道路環境を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 松本系魚川連絡道路(松糸道路)が事業化</p> <p>松糸道路の安曇野市新設区間「安曇野道路」は、令和2年8月にAルートが最適ルート帯として公表され、令和4年度より新規事業化されました。</p> <p>松糸道路は、広域的な道路ネットワークを形成する上で必要なだけでなく、安曇野市にとっても商工業や観光産業など、将来のまちづくりを考える上で重要な道路になります。</p>	<p>1st. 松本系魚川連絡道路の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本系魚川連絡道路は安曇野市にとって、沿線の商工業や観光産業を発展させる「地域を育む道」として建設が期待されます。 「安曇野道路」の早期建設に向けて、県と共に取り組んでいきます。
<p>○ 生活を支える道路</p> <p>道路は、通勤、通学等、移動を伴う場面で必ず利用する重要な施設です。</p> <p>そのため、利便性や快適性、安全性に対するニーズが高く、毎年多くの改善要望が寄せられています。</p>	<p>2nd. 事業実施路線の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路整備推進計画に基づき、幹線道路の整備を行います。 生活道路においては、要望があった路線の重要度、緊急性等を踏まえ、順次改良を行います。
<p>○ 道路施設の老朽化</p> <p>道路や橋梁など既存施設の老朽化が進んでおり、対応が必要になっています。</p> <p>長寿命化計画に基づき、将来的な財政負担の軽減や、道路交通の安全性の確保に取り組むことが必要です。</p>	<p>3rd. 施設の長寿命化と適正な維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路や橋梁などの適正な維持管理に努め、安全で安心な道路環境の整備を進めます。 舗装維持管理計画、橋梁長寿命化計画に基づき傷んだ舗装や橋梁の修繕を行い、長寿命化を図ります。
<p>○ 降雪時の交通対策</p> <p>冬期間は降雪による交通障害や、凍結によるスリップ事故が発生することから、冬期における道路環境の維持管理が重要となります。</p>	<p>4th. 効率的な除融雪対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 積雪時の交通や歩行者の安全を確保するために、区やPTAなどと協力しながら、効率的な除融雪対策に取り組めます。 積雪や凍結による交通障害を防止するため、除雪、融雪路線を指定し、冬期間の交通確保に努めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市道舗装率（％）	76.7（R3）	78.2（R9）	
歩道整備率（％）	70.5（R3）	72.6（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
まちの推進

- ・ 歩行者の利用頻度の多い道路等においては、幅の広い歩道の整備、歩道段差、傾斜、勾配の改善、視覚障がい者誘導ブロックの設置等により歩行空間のユニバーサルデザインを推進します。

4-7 上下水道の安定経営

良質な水道水の安定供給と水洗化による快適な生活環境を維持するとともに、健全かつ効率的な事業運営を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 良質な水道水の安定供給</p> <p>上水道は、生活に欠くことのできない大切なライフラインであり、常に良質な水が供給されることが求められています。</p> <p>このため、施設の計画的な更新や、災害時の給水体制の確立に取り組む必要があります。</p>	<p>1st. 計画的な施設更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水質管理を徹底し、市民に信頼される良質な水道水の供給に努めます。 ・ 水道ビジョンに基づく、計画的な施設の更新に合わせ、災害時の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路の耐震化整備を行い、災害時の給水ルートの確保を進めます。
<p>○ 快適な生活環境を維持</p> <p>下水道は、衛生的で快適な生活を送る上で必要不可欠な施設となっています。</p> <p>このため、下水道への接続促進に取り組むとともに、適正な維持管理による施設の長寿命化と下水道区域見直しによる効率的な汚水処理を図り、快適な生活環境を維持していく必要があります。</p>	<p>2nd. 水洗化率向上と計画的な事業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水洗化率の向上を目指し、積極的に下水道接続を推進します。 ・ 下水道ストックマネジメント計画に基づき、計画的かつ効率的に施設の改築・更新を進めます。 ・ 処理区域の見直しによる接続管渠整備を計画的に進め、汚水処理の効率化を図ります。
<p>○ 健全かつ効率的な事業運営</p> <p>今後の人口減少等の環境の変化を見据え、水道事業、下水道事業ともに健全かつ効率的な事業運営に努め、安定したサービス提供を行う必要があります。</p>	<p>3rd. 中長期的視点に立った財政運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的な投資、財政計画に基づき、健全で効率的な財政運営に努めます。 ・ 下水道処理場の統廃合を進め、効率的な汚水処理を目指します。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
主要管路耐震化率(%)	36.8 (R3)	71.8 (R9)	
水洗化率(%)	87.0 (R3)	89.4 (R9)	

関連するデータ



4-8 持続可能な公共交通の形成

あらゆる移動ニーズに対応するとともに利用される移動サービスを提供することで、将来にわたって確保、維持される地域公共交通システムの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 公共交通に対するニーズが増加</p> <p>公共交通機関は、学生や高齢者など、車を持たない人(交通弱者)の生活を支える大切な移動手段です。</p> <p>しかし、マイカーの普及や人口減少などにより、公共交通の利用者は長期的な減少傾向にあります。</p> <p>一方で、免許を返納した高齢者の通院や買い物に対するニーズが高まっており、地域の特性に応じた公共交通の確保・維持が求められています。</p>	<p>1st. デマンド交通「あづみん」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市独自の移動手段であるデマンド交通「あづみん」の輸送力を強化し、最大の特徴であるドアツードアサービスを活かして利用者の確保を図ります。 「あづみん」の乗車予約をオンライン(アプリ)対応に加え、運行時間の拡張や運行エリアの再編、発着時間の可視化など、従来サービスからの利便性向上を図ります。 新たなサービス展開により、交通弱者だけでなく、若年層や生産年齢層などの新たな利用者層を確保します。
<p>○ モビリティ(移動体)の充実が課題</p> <p>市民の移動手段に加え、来訪者の足としての二次交通の確保が課題となっています。</p> <p>鉄道(JR大糸線・JR篠ノ井線)や周遊バス、タクシーなどの既存の公共交通機関、シェアサイクルの有効活用に加え、これらを補完する新たなモビリティの導入が期待されます。</p>	<p>2nd. 地域交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道やデマンド交通などを軸とし、複数の公共交通機関と連動した地域交通ネットワークを形成します。また、これらの移動サービスを、個々の移動ニーズに応じて検索・予約・決済等を一括で行うことが出来るサービス(MaaS)の導入を推進します。 デマンド交通に加え、本市に順応する新型輸送サービスの導入を検討します。 駅前駐輪場や駐車場の維持管理を行い、鉄道を利用しやすい環境を維持します。
<p>○ 新たな時代への対応</p> <p>脱炭素社会の実現に向け、公共交通としての役割を担う車両等についても、環境負荷が小さいものへの転換が求められています。</p> <p>また、少子高齢化の進行により、地域における公共交通の担い手不足が顕在化しています。</p>	<p>3rd. 新技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の車両更新に合わせ、EV 車両や新エネルギーを利用したモビリティへの移行を検討します。 自動運転技術の実装を視野に、調査、研究を行います。また、新技術に対する社会受容性の向上のため、情報発信を行います。

<p>○ 勤労者の通勤、移動</p> <p>駅やインターチェンジの駐車場、駐輪場を整備して、公共交通機関を利用して通勤、移動する勤労者の利便性を確保しています。</p>	<p>4th. パークアンドライドの拠点管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 車や自転車から公共交通機関に乗り換えて利用している場合が多く、駅やインターチェンジに整備した駐車場、駐輪場を適切に運用して利用者の利便性を確保して円滑な企業活動に結びつけます。
--	---



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
あづみん（デマンド交通）利用者数（人）	78,975 (R3)	84,000 (R9)	
あづみん（デマンド交通）の実利用者数（人）	2,060 (R3)	2,200 (R9)	
あづみん（定時定路線）利用者数（人）	10,444 (R3)	10,500 (R9)	
公共交通網に対する満足度の割合（%）	18.3 (R3)	23.0 (R9)	市民意識調査「満足している」「まあ満足している」の割合

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>誰もが活躍する まちの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> デマンド交通の充実を図り、高齢者や障がい者の外出機会を創出します。 外国人の方が利用しやすいよう、人権共生課と連携した周知を実施します。また、多国籍言語に対応可能な利用案内を充実させます。
<p>選ばれるまち安曇野 の持続</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数のモビリティを整備し、MaaS アプリで連携させることで、市内の移動に加えて、市外への移動についても円滑化します。
<p>文化・芸術中核都市の 実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> AI 活用型オンデマンドバスの導入など、来訪者が利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。 MaaS アプリの導入により複数の移動手段をシームレスにつなぐことで、市内関連施設の回遊性向上を図ります。
<p>アウトドア・シティの 形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> MaaS アプリの導入により、拠点となる施設への移動を円滑化する中で、シェアサイクルの活用を推進します。

4-9 良質な住環境の整備

公園、霊園の整備や適正管理、合併処理浄化槽の設置促進、公害防止の取り組みを通じて、良質な住環境の整備・保全を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 墓地にかかる社会情勢の変化</p> <p>市民生活に不可欠な墓地については、社会情勢の変化に伴う需要の変化や、無縁墳墓の増加が懸念されています。</p>	<p>1st. 市営霊園の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズに配慮した霊園の整備を検討するとともに、無縁墳墓の把握と発生抑制対策を行い、適正な維持管理を行います。 返還聖地の有効活用(再販)を行います。
<p>○ 生活排水未処理の解消</p> <p>合併処理浄化槽の設置は進んできていますが、いまだ生活排水未処理の解消に向けた取り組みが必要となっています。</p>	<p>2nd. 合併処理浄化槽の設置促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 良質な住環境の保全や水質汚濁防止のため、補助金交付等の手段により、下水道整備区域外での合併処理浄化槽の設置と適切な維持管理を促進します。
<p>○ 住環境の保全</p> <p>住環境にかかる苦情や相談の件数は減少傾向ですが、良好な状態を維持し、さらに改善していくためには、継続した取り組みが必要です。</p> <p>また、生活様式の変化や地域の繋がりの希薄化により、相談の種類や状況も多様化しています。</p>	<p>3rd. 公害防止の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的な環境指標の調査により、現状と変化を把握し、公害の発生を未然に防止します。 法令に基づく事業者の調査・監視・指導や市民への啓発などを行います。 発生した公害に対しては、良質な住環境の回復のため、原因の特定・解消に取り組めます。
<p>○ 緑化推進への取り組み対応</p> <p>良質な住環境整備などの観点から、まち中の緑化の重要性が高まっています。緑を活かし、人々が集い賑わう魅力あるまちを目指して、公共施設や住宅地の更なる緑化の推進や緑のまちづくりを支える体制などの取り組みが求められます。</p>	<p>4th. 緑のまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> まち中の良質な住環境や景観をより良くするため、身近な緑を守り育て、緑が有する多様な機能を活用した緑のまちづくりの取り組みを進めます。 緑豊かなまちづくりを推進するため、住宅地への緑化支援を継続して取り組みます。
<p>○ 公園施設維持・更新による利用者の安全確保への対応</p> <p>市民のニーズに即した公園整備を進めるとともに、適切な管理と更新を行い、全世代が安全・安心して利用できる公園の整備が求められています。</p>	<p>5th. 公園施設の適切な維持管理の継続と更新の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した公園施設の維持修繕と更新を計画的に継続して行き、長寿命化と安全性の向上を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
きれいな水、澄んだ空気など、 良好な生活環境が保たれている （ポイント）	3.17 (R3)	3.17 以上 (R9)	市民意識調査（満足度）
空气中窒素酸化物濃度（ppm）	基準値以下 (R3)	基準値以下 (R9)	（大気汚染の環境基準） 二酸化窒素※10.04～0.06ppmのゾーン内 又はそれ以下（1時間値の1日平均値）
公園・緑地整備に対する満足度 の割合（％）	49.2 (R4)	57.0 (R9)	「満足している」「まあ満足している」 の割合

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野 の持続

- ・ 良質な住環境の整備、保全により、市民や移住者に選ばれるまち安曇野の下地づくりを行います。
- ・ まち中の良質な住環境や景観をより良くするため、身近な緑を守り育てる取り組みを進めます。また、住宅地への緑化支援を継続して取り組みます。
- ・ 老朽化した公園施設の修繕と更新を計画的に行い、長寿命化と安全性の向上が図られた公園整備を進めます。

4-10 移住・定住の推進

住んでみたい、住んでよかったまちを目指し、当市の魅力を市内外に戦略的に情報発信を推進するとともに、移住相談体制を充実させ、移住・定住を推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 若年層の都市部への流出が続く</p> <p>本市では、社会動態(転入者－転出者)が例年プラスとなっているものの、年代別にみると、若年層の流出が多い状況にあります。</p> <p>人口減少が進む中で、本市が持続的な発展を続けるためにも、若年層のふるさと回帰や、子育て世帯に対する移住・定住推進は重要です。</p>	<p>1st. 若者・子育て世帯の移住定住推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層の生活を支援する助成制度や取組みを検討し、定住を推進します。
<p>○ 戦略的な情報発信が必要</p> <p>本市を移住先として選んでいただけるよう、また、市民の方には「住み続けたい」と思ってもらえるよう、戦略的かつ継続的に情報を発信することが必要です。</p> <p>移住・定住相談のニーズに的確に応えるため、ワンストップ窓口を強化し、関係課や民間団体等との連携によるサポート体制の強化が必要です。</p>	<p>2nd. 移住希望者への情報発信・相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住サイト「安曇野暮らし支援協議会」の活用、銀座 NAGANO をはじめ、首都圏を会場とする移住セミナーや、市内での現地体験会を定期的を開催し、本市の豊かな自然環境や、暮らしに係る情報提供を「あづみの移住大使」を活用し、積極的に行います。 民間団体等との連携による、きめ細かな相談体制を強化し、それぞれの悩みや不安をサポートします。 移住者交流イベント等によるコミュニティ形成に取り組みます。
<p>○ 明科地域が過疎地域へ指定</p> <p>令和4年4月に明科地域が過疎地域に指定されました。</p> <p>本地域は、市内で高齢化率が特に高い地域となっており、若者の移住やシビックプライドの醸成など、特性を生かした活性化施策を講じる必要があります。</p>	<p>3rd. 地域の受け入れ体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 明科地域を中心に、移住希望者に対する案内の充実など、地域の自発的な空き家の利活用や移住受入体制整備への取組みを支援します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
行政サポートによる移住者数 （人）	42 (R3)	400 (R9)	累計値 毎年40世帯（夫婦）を受入れる想定 総合戦略 KPI
社会増減数（年間）（人）	197 (R3)	300 (R9)	総合戦略数値目標

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続	・ シティプロモーションの強化し、本市の情報や魅力を発信することで、移住検討者への情報提供、を行います。また、10代から20代の転出を抑制します。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 交流人口・関係人口の拡大を図るとともに、AZUMINO ブランドの情報発信や体験を発信します。
アウトドア・シティの形成	・ 交流人口・関係人口の拡大を図るため、アウトドアなどを切り口とした交流人口、関係人口の創出を図ります。

4-11 空き家対策の推進

空き家の発生を抑制するための啓発や空き家の適正な管理の推進を通じて、空き家を地域の資源として生かしながら、活力あるまちづくりを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 管理不全の空き家が増加</p> <p>空き家は少子高齢化や核家族など人口減少により、年々増えています。また、適正に管理されていない空き家も増えており、環境や景観、保安面への悪影響や地域の魅力の低下が危惧されます。</p> <p>このため、空き家所有者や高齢世帯などを対象に、空き家に関するメリットやリスクなどの情報共有を図ることで、課題解消に向け自発的な行動につながる啓発の強化が求められています。</p>	<p>1st. 所有者に届く情報発信、啓発の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の発生抑制や適正管理、利活用などの情報や取組み、実態を所有者に届けるため、専門家による相談会や講座、活用事例動画、セミナーなど情報発信を強化します。 ・ 管理不全の空き家や危険性のある空き家の解消を図るため、空家対策法に基づく助言、指導、勧告などの行政措置対応を積極的に進めます。
<p>○ 中古住宅の需要は高いが、市場に流通する物件が少ない</p> <p>令和4年 12 月末時点では、市内には劣化が少なく利活用可能な空き家が、840 戸ほどあることがわかっています。</p> <p>しかし、空き家バンクなどを通じて市場に流通する物件が少なく、需要に対し供給が不足している状況です。</p>	<p>2nd. 空き家バンクの利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家バンクの活性化を図るため、所有者や利活用希望者のニーズを反映しながら、移住促進や地域の活性化につながる交流、関係人口の拡大に寄与する補助金制度を充実します。
<p>○ 利活用希望者の増加と多様化するニーズ</p> <p>地方回帰や二拠点居住などの流れを受け、空き家の利活用を希望する方は増加しています。</p> <p>また、その活用方法は住まいに限らず、店舗などの創業やテレワーク、コワーキングスペース、福祉事業所など多様です。</p>	<p>3rd. 空き家利活用へのマッチング支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利活用へのマッチングを強化するため、ガイドによるまちあるき空き家見学会などを市内に波及させ、地域と連携しながら空き家を資源として生かせるまちづくりを進めます。 ・ 課題解消や利活用に導くため、専門家や民間団体と連携したネットワーク組織やコーディネーター育成により相談体制を整備します。
<p>・ 空き店舗解消への課題</p> <p>市内の空き店舗の数は増加しており、起業を考える人が空き店舗の活用を希望することも少なくありません。ただ、店舗が住宅を兼ねているなどの事情から、活用に至らないケースも多く、利活用に向けた取組を推進する必要があります。</p>	<p>4th. 空き店舗の利活用を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内外の者を問わず、市内の空き店舗等をリノベーションする費用を補助し、新たな街の賑わいを取り戻す拠点を増やします。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
空家数（戸）	1,086（R3）	868（R9）	発生予防、適正管理、利活用促進を総合的対策することで、現状から2割減。
特定空家の認定数（件）	13（R3）	63（R9）	累計値 悪影響が予見される物件の早期認定。
空家対策補助金申請件数（件）	71（R3）	221（R9）	累計値 毎年30件
空き店舗等改修件数（件）	0（R3）	5（R9）	累計値

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれるまち安曇野の持続

- ・ 空き家バンクの登録物件及び多様化する利活用のニーズを支援する補助金制度を充実します。
- ・ 地域の魅力を再認識し伝えるため、歴史や文化、生活環境などの情報を発信しながら、空き家のマッチングを図るまちあるき空き家見学会で移住、定住を促進します。

5-1 学校教育の充実

郷土への愛着と誇りを持ち、未来を拓くたくましい安曇野の子どもを育み、活力に満ちた特色ある学校づくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 学力・体力の底上げが課題</p> <p>学力は年度による多少の差異はあるものの、諸調査結果等をもとに小中連携して指導改善に取り組むことにより、一定の成果がみられます。</p> <p>一方で、中位層以下のさらなる底上げを図るため、個別最適な学びと探究的に学び合う学習を効果的に組み合わせた学びの実現に取り組む必要があります。</p> <p>また、体力は小学校低学年からの基礎体力の向上、特に走る、投げる、瞬発性などで向上の余地があります。多様な特性をもつ児童生徒も、日常的に楽しみながら体を動かせる環境づくりに取り組む必要があります。</p>	<p>1st. 主体的・探究的に学び合う教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上推進委員会を核に、市校長会と協働・連携して全国学力・学習状況調査結果を分析・考査し、学習指導の改善を図ります。 ・ 市指定研究校制度を設け、研修補助や指導主事派遣等による授業研究支援を進めます。 ・ 「安曇野の時間(仮称)」を導入し、地域の理解や郷土を思い愛する心情を育てます。 ・ 地域と学校が協働して、キャリア教育の充実を推進します。 ・ 幼年期からの体づくり運動に親しむ機会を充実させるため、運動に係る研修機会を設け、授業等で活用します。
<p>○ 特別な配慮を要する子どもの増加</p> <p>発達に係る個々の特性に加え、家庭環境や社会状況等の複合的な要因から、学び方や生活・行動様式が多様化し、特別な配慮や社会的援助を要する子どもの数が、年々増加している状況が見られます。</p> <p>また、不登校傾向にある児童生徒在籍率は、国・県同様、増加傾向にあり、ここ数年は小学校での増加が顕著です。</p>	<p>2nd. 子どものニーズに応じた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの状況・ニーズに応じた適切な支援を行うため、医療、福祉等の分野を含めた関係機関が連携、支援します。 ・ 不登校やいじめ、対人関係に悩む子どもに寄り添う相談・支援体制を整備します。 ・ 発達上の特性がある子ども、医療的ケアを必要とする子どもなどを支援する支援員制度の充実を図ります。
<p>○ 学校施設の老朽化が進む</p> <p>本市は小学校 10 校と中学校 7 校を有しており、その中の建築後 40 年以上経過した校舎の保有面積が 4 割を超え、学校施設の老朽化が顕著となっています。</p> <p>建築年が合併前の旧町村においてほぼ同時期であるため更新が集中する問題があります。</p>	<p>3rd. 長寿命化計画に基づく計画的な改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年 3 月に策定した「安曇野市学校施設長寿命化計画(個別計画)」をもとに、各施設の老朽化に応じた大規模改造や、長寿命化改修を行い学校施設の機能維持を図ります。

<p>○ 食育・地産地消の推進</p> <p>安曇野市学校給食理念(目標)を制定し、学校給食法に定める目的や目標を達成するため取り組みを行っています。</p> <p>月に一度、「安曇野の日」献立による給食を実施し、旬の安曇野産食材を取り入れ、地域の伝統食や季節の行事食などの提供に努めています。</p> <p>主食米は全て安曇野産を使用しており、安曇野産及び長野県産の食材を優先的に取り入れています。</p>	<p>4th. 安曇野型食育・地産地消の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者との交流給食を実施することにより、子どもたちと学校給食に携わる農家の人たちと給食を一緒に食べ、直接話を聞くなど交流することを通して、食材への興味や給食に携わる人たちに対する感謝の心を育てます。 小中一貫教育の趣旨により、アレルギー対応など継続的な支援が可能となることや、生産者との交流給食など、児童生徒に寄り添った顔の見える給食を提供し、より豊かな学びと成長を実現します。
<p>○ 市内の美術館・博物館と連携した情操教育</p> <p>良質な芸術に触れることは、子どもたちの創造性を育み、豊かな情操を養う大切な機会となります。</p> <p>芸術家を招き、学校における公演を行うほか、美術館・博物館の収蔵する作品や資料を学校へ持ち寄る出前展覧会等、子ども達が芸術文化に触れる機会を設けています。</p>	<p>5th. 良質な芸術に触れる機会を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> プロの能楽師や大学能楽部の学生による「能楽教室」や、大学音楽学部器楽科の教授や学生による楽器演奏指導など、国内で活躍する芸術家から直接学ぶ機会を作ります。 市内の公立・私立を含めた20余りの美術館・博物館と協力する「学校ミュージアム」を引き続き開催し、美術館に収蔵する作品を校内で展示します。 アーティスト・イン・レジデンスにより、滞在した作家や学生と子どもたちが交流する機会を創出します。
<p>○ 博物館等と連携した郷土学習の実践と、安曇野の歴史や先人について学ぶ教育の推進</p> <p>ちくに生きものみらい基金を活用し、小中学校の自然観察会の実施を奨励しています。安曇野の自然の中で、その豊かな環境を学ぶ機会を支援しています。</p> <p>児童・生徒に、郷土で古くから営まれてきた暮らしを体験してもらう取り組みを進めています。</p> <p>人権教育の一助として、貞享騒動について学ぶ出前講座を実施しています。</p>	<p>6th. 体験的な講座の実施と出前講座メニューの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会等の職員が里山や水辺等に出向き、児童・生徒を対象とした自然観察会を行います。 安曇野の先人が営んできた暮らしを体験してもらう出前講座や、博物館等を会場にした子ども向けの講座を開催します。 地域の発展や安曇野の近代化に尽くした人物等について、出前講座のメニューを充実させます。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
主体的・対話的で深い学び達成度 (%)	78.6 (R3)	90.0 (R9)	全国学力・学習状況調査結果
新規不登校児童生徒の在籍率 (%)	1.8 (R3)	1.3 (R9)	
大規模改修又は長寿命化改修工事 (箇所)	1 (R3)	1 (R9)	1 箇所/年
地場産物(安曇野産)の使用割合 (%)	25 (R3)	27 (R9)	天候等による影響あり
指標項目1 学校へのアウトリーチ事業の開催 (回)	30 (R3)	35 (R9)	能楽教室・楽器演奏指導・学校ミュージアム・ダンスなど

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名(統計名)を以下に記載してください。
(希望がある場合) ⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・不登校やいじめ、対人関係に悩む子どもに寄り添う相談・支援体制を整備し、「行きたい、学びたい」と思える学校づくり・学びの場の充実を進めます。

文化・芸術中核都市の 実現

- ・公私立の美術館・博物館と連携し小中学校への出前展覧会「学校ミュージアム」や収蔵資料を活用した体験講座を開催します。
- ・東京藝術大学と連携した事業、能楽教室など、芸術家と子ども達が直接交流する機会を設けます。

調整用ページ

5-2 家庭・地域との連携の推進

学校と家庭、地域が連携・協働し、子どもたちの学びや成長を支えます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 学校教育へのニーズと地域教育力の向上</p> <p>急激に社会が変化する中、学校を取り巻く課題は複雑化し、学校では、子どもたちがたくましく生き抜くために必要な多様な能力を育むことが求められています。</p> <p>また、ライフスタイルの多様化により、地域社会とのつながりの中で育んできた子どもたちの経験や学びが大きく失われてきています。</p>	<p>1st. 学校と地域の連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来を拓くたくましい子どもに必要な資質や能力を育むため、コミュニティスクールを活用した地域とともにある学校づくりや学校と地域の協働による学校を核とした地域づくりを進めます。
<p>○ 社会情勢の変化とこれからの学校と地域</p> <p>人口減少、高齢化が進む中、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等により地域社会における支え合いやつながりの希薄化が懸念されています。</p> <p>そうした状況の中、学校と地域が連携・協働して行う学校内外における教育活動が必要とされています。(生涯学習課)</p>	<p>2nd. 公民館を核とした地域と学校のネットワークの体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指します。 地域公民館において、地域コーディネーター、社会福祉協議会等が参加する連絡会を開催し、情報共有、ネットワークの構築、活動に対する相談など「学校と地域の連携のための基礎づくり」を行います。
<p>○ 地域ぐるみで青少年の健全育成の取組みが必要</p> <p>核家族化、少子化の進展、ICTの革新等により子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。子どもたちが主体性をもって行動し、人間性や社会性を育むために、地域ぐるみで、家庭、学校と連携した青少年健全育成が必要となっています。(子ども家庭支援課)</p>	<p>3rd. 地域が主体としたインクルーシブな青少年育成の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区子ども会育成会の活動を支援し、子どもたちが家庭や学校以外でもいきいきと活躍できる場づくりに努めます。 ジュニアリーダー養成講座を開催し地域と一体となった「子どもの手による子ども会」活動の推進を目指します。 放課後子ども教室に地域の方を講師として招き、世代間交流や体験活動を通して子どもを育み、地域の活性化につなげます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
延べ参加ボランティア数（人）	1,728 (R3)	1,900 (R9)	市内小中学校で行ったボランティア活動への参加者数
地域学校協働本部連絡会の仕組みを生かして、地域との協働による活動を行った学校数（校）	数値（—）	17 (R8)	
放課後子ども教室登録率（％）	24.0 (R3)	28.0 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・ コミュニティスクールを活用した地域とともにある学校づくりや学校と地域の協働による学校を核とした地域づくりを進めます。
- ・ 地域学校協働活動による、地域のつながりづくり、ボランティア活動による自己実現や生きがいづくりを通じ、地域の力を向上させます。

5-3 生涯を通じた学びの創出

すべての人が生涯を通じて主体的に学ぶことができ、また、その成果を地域で活かせる環境を整え、よりよいまちづくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生涯学習の多様化</p> <p>少子高齢化、長寿社会を迎えるなか、個人の価値観、ライフスタイルも多様化し、すべての人がより豊かに生きるための生涯学習の必要性が高まっています。</p> <p>インターネットや SNS の普及等により、学習スタイルに大きな変化がみられます。</p>	<p>1st. 学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習情報の発信、各世代に応じた学習機会の提供、利用満足度の高い施設運営に努め、生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めます。
<p>○ 学習成果発表機会の創出</p> <p>生涯学習は学んで終わりではなく、その学びの成果を生かすことが重要です。</p> <p>それぞれに活動する市民や団体が必ずしもその成果を発表する機会に恵まれているとはいえないのが現状です。</p> <p>活動発表の場は活動継続のモチベーションの向上、また、発表鑑賞者が活動に取り組むきっかけになることも期待できます。</p>	<p>2nd. 学習成果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域文化祭等の成果発表の機会の充実、地域貢献に活かせる指導者等の人材育成等、成果を生かす機会の場を積極的につくり出し、活動意欲の向上につなげます。 市民の日頃の成果を見てもらう場としての施設利用を促し、活動意欲の向上につなげ、施設の有効活用を図ります。
<p>○ 学びの場としての図書館</p> <p>複合施設である本市図書館の特徴を生かし、生涯学習の拠点施設のひとつとして、多様化するニーズに応えるとともに、さまざまな「学び」の場となるようサービスの充実が求められています。</p>	<p>3rd. 図書館サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者まで幅広い市民の「学び」に応えるよう、資料の収集及びレファレンス（相談・調査）の充実を図ります。 市民ニーズと社会変化に対応したサービス提供に努め、他自治体の図書館や市内生涯学習施設、文化施、学校等と連携し、多様な事業展開を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
生涯学習講座参加者数（人）	11,668 (R3)	12,500 (R8)	
地域文化祭来場者アンケートの満足度（％）	94 (R3)	95 (R9)	
図書館の市民1人当たりの貸出冊数	7.8 (R3)	9.0 (R8)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。

（希望がある場合）⇒第2次安曇野市総合計画 市民意識調査報告書【速報版】18 ページ 図表 25
愛着を感じている理由・愛着を感じていない理由

学校や生涯学習が充実している 4.9% 学校や生涯学習が充実していない 7.5%

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・ 各世代の特徴を踏まえて、全世代にわたる生涯学習の取り組みを広げます。
- ・ 地域文化祭、総合芸術展等の学習成果の発表の場を創出します。
- ・ 誰もが読書活動を享受できるよう、障がい者に対応した資料やサービスの充実に努めます。

5-4 スポーツを楽しむ環境の充実

安曇野の豊かな環境を活かしたイベントや大会、教室等の開催や障がい者スポーツの推進を通じて多様な交流や地域活力の創出、絆づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 子どものスポーツの推進</p> <p>幼少期のころから親子でスポーツに親しむ機会や達成感、成功を感じることができる体感、経験を積み重ねる機会を設けることが重要です。</p> <p>市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼少期からの基礎体力向上に向け、コーディネーショントレーニングの拡充に力を入れています。</p> <p>子どもたちの体力の維持、向上の根底にはスポーツが好きと感じることが重要であり、スポーツへの関心を高める取組の継続が必要です。</p>	<p>1st. 基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児を対象としたコーディネーショントレーニングを継続し、指導者の育成に努めます。 ・ コーディネーショントレーニングの効果をさらに上げるため、小学校にも取り入れる体制を構築します。 ・ スポーツ協会と連携を図り、スポーツ少年団の活動を支援します。 ・ 集客対象の選考や行事内容等を工夫しながら親子スポーツ教室等をさらに拡充します。 ・ ジュニアスポーツ選手の育成事業を強化します。
<p>○ 障がい者スポーツの推進</p> <p>障がい者向けのスポーツ教室等への参加や関心の程度が、市内では低い状況にあります。</p> <p>今後は、国や県の取組との連携も視野に入れながら、認知度向上のきっかけづくりが必要です。</p> <p>また、教室等開催時における運営面でのサポート体制の確立が課題となっています。</p>	<p>2nd. 障がい者スポーツを広める場と体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者スポーツの体験会や活動成果の情報を発信する機会を設け、参加や連携のきっかけをつくります。 ・ 様々な団体が主催する障がい者スポーツの指導者講習やボランティア養成講座等の開催情報を市民に提供し、参加促進を図ります。 ・ 障がい者のスポーツ活動や利用拠点となる施設等に関する情報提供を充実させます。 ・ 障がい者スポーツ推進体制の組織化に向け、指導者、協力者、連携者の確保を支援します。
<p>○ スポーツの推進体制</p> <p>少子高齢化が進む中、本部体制の高齢化や指導者のなり手不足が問題になりつつあります。</p> <p>また、指導者の所在や得意分野など、基礎的な情報も不足しています。</p> <p>中学校の部活動では、少子化や競技種目への関心の変化から運動部への入部者の割合が減少傾</p>	<p>3rd. 指導者の育成と組織体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会や講習会を充実させ、スポーツ指導者の資質向上を図ります。 ・ 指導者等の人材情報を一元化し、関係者で共有できる仕組みを構築します。 ・ 中学校の部活動の指導等、人材を必要とする機関のニーズと保有する人材とのマッチング、

<p>向にあるほか、日常業務の増加に伴い、教員だけでは部活動を支えられない状況にもなりつつあります。</p> <p>総合型地域スポーツクラブ自体の認知度は低い状況であり、認知度を上げる取組が必要です。現在は堀金地域に1団体設立されています。</p>	<p>連携や調整の仕組みを構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的な指導者の資格取得や継続を希望する指導者を支援する仕組みを検討します。 ・ 既存の地域スポーツクラブの支援を強化するとともに、周辺地域の関係団体と連携を図り、参加者の輪を広げます。
<p>○ 「する」「みる」スポーツを通じた多様な交流の拡大</p> <p>幼児から高齢者まで各年齢層に合ったスポーツ活動の機会を増やすことの必要性は、市民アンケートの結果にも表れています。</p> <p>年齢層やニーズの多様化に合わせて「する」スポーツだけでなく、高い技術にも触れることができる「みる」スポーツにも力を入れる必要があります。</p>	<p>4th. スポーツに触れる機会を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民スポーツ祭の開催を通じて交流を深め、市としての連帯感を共有します。 ・ 総合体育館を拠点としたスポーツ教室等を開催し、市民がスポーツに参加する機会を拡大、拡充します。 ・ より高いレベルの競技大会を総合体育館で開催することで「みる」スポーツの機会を増やします。
<p>○ 施設の快適性、利便性</p> <p>老朽化や経年劣化により、施設の快適性や利便性の改善を求める声が挙がっています。</p> <p>今後も利用促進に向けた施設の改善を継続的に進め、安全かつ満足度の向上につなげる必要があります。</p> <p>市では、計画的に耐震改修や大規模改修を行っており、施設の統廃合についても検討しています。</p> <p>公式スポーツ施設整備については、計画の改定時期に見直しを行い、必要に応じて新設や既存施設の拡充を検討する必要があります。</p>	<p>5th. 施設の計画的な改修と修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のニーズ、老朽化の程度、利用状況などに応じて優先順位を見定めながら、修繕や改修工事を継続します。 ・ また、施設の長寿命化や統廃合等に関する計画は、施設の状況を把握しながら、定期的に見直しを行います。 ・ 公式スポーツ施設整備計画の見直しに合わせて施設の利用状況や利用者のニーズを把握し、必要に応じて新設の建設や既存施設を拡充します。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
運動好きの割合	60.6% (R3)	70.0 (R9)	小学校5年生、中学2年生の男女平均
障がい者スポーツ教室、イベントの参加者数 (人)	0 (R3)	3 (R9)	市が主催する教室等の開催
総合型地域スポーツクラブ参加者数 (人)	480 (R3)	1,000 人 (R9)	
国内トップレベルの試合等の誘致 (回)	0 (R3)	2 (R9)	バレーボールとバスケットボールのプロリーグ
施設利用者アンケートによる満足度 (%)	63.8% (R3)	70.0% (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインに配慮した施設の改善を計画的に進めます。 ボッチャなどの障がい者スポーツの普及を推進します。
選ばれるまち安曇野 の持続	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベント・試合の開催や中学校等の部活と指導者のマッチング等を通じた交流人口・関係人口の創出します。
AZUMINO ブランドの 世界発信	<ul style="list-style-type: none"> 国内トップレベルの試合等の誘致等を通じて安曇野市のスポーツ環境を国内外に発信します。
アウトドア・シティの 形成	<ul style="list-style-type: none"> アウトドア・スポーツの振興や、アウトドア・スポーツを通じた域外居住者等との交流等を図ります。

調整用ページ

5-5 文化・芸術活動の推進

「文化・芸術中核都市」の形成を目指し、市内の美術館・博物館の活動を活性化するとともに、市内外の芸術家等の活躍の場を増やし、芸術文化の振興を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 新たな芸術文化の発信</p> <p>安曇野市には公立・私立の美術館・博物館が数多く存立しています。小規模な文化施設が多く、施設同士が連携した取り組みを続け、活性化を図っています。</p> <p>近年では、表現手段が多様化し、これまで美術館・博物館では扱いきれない作品も現代のアートとして注目されています。</p> <p>芸術家が市内に滞在し、創作をしながら、市民と交流するアーティスト・イン・レジデンスの取り組みは、地域の文化を刺激するとともに、芸術家を育てる事業としても注目されています。</p>	<p>1st. アーティスト・イン・レジデンス(AIR)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サテライトキャンパスの実現に向け、長野県と協力して、東京藝術大学の学生のアーティスト・イン・レジデンスを実施します。 ・ アーティスト・イン・レジデンスの中心となるアーティストの滞在拠点の整備を行います。 ・ 信州アーツカウンシル(長野県文化振興事業団)や(一財)地域創造等の外部の文化団体の事業に参画し、アーティストを招致します。 ・ 安曇野市文化振興基金を設け、芸術文化活動の振興に努めます。
<p>○ 文化施設の整備</p> <p>市内には、美術館・博物館・ホールのほか、各地域の交流学习センターなど、展示室を備えた文化施設があります。</p> <p>各文化施設には、学芸員やホールの担当者など、文化事業をサポートする職員を配置し、展示作業や事業の発信などをサポートしています。</p> <p>現在は、新市立博物館構想に基づき、美術館・博物館の整備を進めています。</p>	<p>2nd. 芸術家・工芸家の発表・発信活動をサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野の芸術家や工芸家が自身のアトリエで作品を紹介する「安曇野スタイル」や、工芸家が作品を展示販売する催し「安曇野さんぽ市」などの事業に、市内の文化施設が参画し、会場や運営に協力します。 ・ 交流学习センターや美術館で、郷土の芸術家や工芸家を紹介する企画展を開催します。 ・ 新進音楽家演奏会など、若手音楽家を発掘し、紹介する事業を継続して実施します。
<p>○ 美術館・博物館の連携</p> <p>安曇野市内にある公私の美術館・博物館 20 館余りが連携した取り組みを続けています。</p> <p>学校への出前展示や講座などを通して、安曇野ゆかりの芸術や文化財に触れる機会を設けています。</p>	<p>3rd. 美術館・博物館の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公私の美術館・博物館で実行委員会を組織し、連携した取り組みを実施し、各施設の学芸員の資質の向上を図るとともに、施設の活性化を図っています。 ・ 信州アーツカウンシルの事業に参画し、広域で連携した「シンビズム」事業を実施します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
交流した東京藝術大学の学生等 人数（人）	20（R3）	70（R9）	楽器演奏指導、漆芸講座、アーティスト・イン・レジデンス
演劇・上映会・コンサート等の 実施件数（件）	12（R3）	15（R9）	
新進音楽家の登録者数（人）	52（R3）	75（R9）	
美術館・博物館の利用者数 （人）	60,000（R3）	80,000（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	<ul style="list-style-type: none"> 施設にバリアフリーの観点を取り入れます。また、外国籍住民や子ども、障がい者等にもわかりやすい展示を行います。
文化・芸術中核都市の 実現	<ul style="list-style-type: none"> サテライトキャンパスの実現に向け、東京藝術大学によるアーティスト・イン・レジデンスを実施し、安曇野発の芸術を発信します。 新市立博物館構想に基づき、美術館・博物館を整備します。

5-6 歴史・文化遺産の継承

先人たちが培った歴史・文化遺産を後世に伝えていくため、地域にある文化財の保存と活用を市民と協働で行い、まちづくりに活かしていきます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 文化財保持者の後継者不足が顕著に</p> <p>有形文化財の所有者、無形民俗文化財の保持者等の高齢化による後継者不足が顕著になっており、地域の文化財・文化の継承が困難になっています。また、所有者等には文化財の保存・維持のための経費負担も課題です。</p>	<p>1st. 保存活用地域計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の文化財について具体的な保存・活用の方法を示した保存活用計画を策定すると共に、市全体の文化財を対象とした保存活用地域計画を策定します。 ・ NPO法人や市民団体と連携し、文化財の保存と活用に取り組みます。
<p>○ 文書館での資料保存</p> <p>安曇野市域の歴史を後世に伝えるため、歴史的・文化的に価値のある公文書や地域資料等を収集して、整理・保存し、市民の利用に供する活動を進めています。</p> <p>一般向けの古文書講座を開催する等、文書館の資料への関心を高めてもらう機会を設けています。</p>	<p>2nd. 公文書等の収集と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重要文書等の選別と文書館への移管を進め、地域に伝わる古文書等の地域資料を調査して、散逸を防ぐことに努めます。 ・ 文書館の収蔵資料を活用した講座等を開催し、市民に文書館の活動への理解を深めてもらうほか、館蔵資料の活用を促します。また資料等をデジタル化して公開を進めます。
<p>○ 地域史の解明と記録</p> <p>私たちの身の回りにある価値ある文化財等を調査し、それらが失われてしまう前に把握し、後世へ伝えていくために記録することが必要です。</p> <p>郷土の歴史や民俗、自然等について、旧町村誌の編さん以後、新たに加えられた知見や社会情勢の変化を踏まえて、『安曇野市誌』の編さんを行っています。</p>	<p>3rd. 市誌編さん作業と市民への広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未指定の文化財を含め文化財の調査の実施に努めます。また調査した文化財は後世へ伝えるために記録し、刊行物等を作成します。 ・ 市誌編さんは、民俗編から着手し、考古・自然・中近世・近現代の各編の編さん作業を段階的に進めます。また、広報や刊行物等の媒体を通じて、市誌編さんに対する市民の理解を深めていきます。
<p>○ 博物館</p> <p>後世に伝え、また残していきたい地域の民俗や歴史、自然環境等、安曇野の魅力を、展示や講座、刊行物の頒布等を通じて市民等に親しみやすい形で発信しています。</p>	<p>4th. 館内の企画とアウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館施設内で、わかりやすい展示や講座を企画するとともに、コンパクト展示や出前講座等、学校や公民館等へ出かけていくことで、市民に親しまれる博物館をめざします。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
博物館の利用者数	15,000 (R3)	17,000 (R9)	豊科郷土博物館、貞享義民記念館、穂高郷土資料館、白井吉見文学館の合計
博物館施設への講座等の参加者数	4,100 (R3)	4,500 (R9)	豊科郷土博物館、貞享義民記念館、穂高郷土資料館、白井吉見文学館の合計

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒市内の指定・登録文化財の数

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍するまちの推進	・ 博物館の展示や出前講座の内容・見せ方などを工夫し、外国籍住民や子ども、障がい者等にとってわかりやすいものとします。
文化・芸術中核都市の実現	・ 文化財に関する講座の実施や学校などでコンパクト展示や出前講座を行うことで、市民に親しまれる博物館を目指します。

6-1 協働によるまちづくり

様々な地域課題を解決し、安全・安心に心豊かに暮らせる地域社会の形成を目指し、安曇野市自治基本条例に基づき、多様な主体による協働によるまちづくりを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域コミュニティ組織の再構築</p> <p>市民の最も身近な地域コミュニティ組織である区は、地域と人とのつながりを基盤に、様々な地域課題の解決を図り、暮らしやすい地域づくりに取り組んでいます。</p> <p>このため、市は、区を最も重要な地域づくりのパートナーとして位置付けています。</p> <p>ただ、近年では、区役員の担い手不足や区脱会世帯の増加など、区の活動に対する理解が得られにくくなっており、隣近所つながりや人間関係の希薄化が課題となっています。</p> <p>区は、「共助」の最大の受け皿であり、市民の安全・安心な暮らしのため、継続的な支援が必要です。</p>	<p>1st. 区の地域力向上に向けた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 区長会では、区のあり方を見直し、持続可能な区の運営を目指す「部制度」の導入を推進しており、市では、本制度のスムーズな導入を支援します。 区長会と連携し、区役員の負担軽減や区の理解促進などについて検討します。 市へ転入される方や、移住を希望される方などへ、区の役割や重要性について啓発し、区に対する理解を促進します。 地域課題の解決力を高めるため、各区においてNPO 法人や市民が主体の公益的な活動に取り組む団体等との連携を支援します。
<p>○ 多様な主体による協働の推進</p> <p>人口減少や少子高齢化が進展し、市民のニーズが多様化、複雑化しています。</p> <p>社会状況が大きく変化する中で、持続可能な地域社会を形成し、市民のニーズに応えるまちづくりを進めるためには、多様な主体がまちづくりの担い手として関わるのが重要です。</p> <p>そこで、協働のまちづくり推進の拠点として、市が設置する市民活動サポートセンターがプラットフォームとなり、行政や区、NPO 法人、地域団体など、多様な主体が連携し、地域課題を解決する仕組みづくりを推進していく必要があります。</p>	<p>2nd. 市民活動サポートセンター機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体がつながるきっかけを生み出すため、市民活動サポートセンターの登録団体の増加を図り、交流の機会を創出します。 新たに公益的な活動に取り組もうとする方、また、団体の運営や活動に必要な情報を、多様なツールを活用して発信します。 地域課題の解決に取り組む市民の相談を受け、寄り添った支援に取り組みます。 「つながりひろがる地域づくり事業補助金」を活用しやすい制度となるよう見直し、市民が主体となる公益的な活動を支援します。
<p>○ 市民が情報発信しやすい環境が必要</p> <p>市民団体の取り組みや意見を広く伝えることは、市民活動の活発化につながります。そのためには、市民が報道機関に情報発信しやすい環境づくりが求められます。</p>	<p>3rd. 情報発信の拠点を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と市民団体が利用できる「記者会見場」を設け、情報発信の拠点とします。

<p>○ 市民ニーズと暮らしの多様化</p> <p>市民の暮らしぶりや価値観が多様化・複雑化しており、かつて、地域単位で一問一答形式により行われていた市政懇談会では、効率的な意見聴取と情報交換が困難な状況となっています。</p>	<p>4th. 対話型の市政懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・ 懇談のテーマを絞り、意見交換ができるグループ単位での市政懇談会を開催します。
--	---



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
区への加入世帯数（世帯）	28,635 (R4)	28,785 (R9)	
市民活動サポートセンター登録 団体数（団体）	184 (R3)	220 (R9)	
市民の報道への発信件数（件）	0 (R3)	120 (R9)	※新設の情報発信コーナー利用件数
対話型市政懇談会の開催数（回）	5 (R3)	30 (R9)	累計値 令和4年7月現在

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
まちの推進

・ 市民活動サポートセンターの機能の充実を図り、市民が主体となって取り組む公益的な活動を支援します。

選ばれるまち安曇野
の持続

・ 災害時などに最も重要な社会インフラとなる「共助」の地域づくりを進め、地域住民がお互いに支え合い、安全・安心に暮らせるまちとして、市内外へ周知します。

調整用ページ

6-2 共生社会の実現

年齢、性別(性自認・性的指向)、国籍、障がいの有無等にかかわらず、多様性を認め合い、責任を分かち合い、自分らしく暮らせる地域社会づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ ユニバーサルデザインのまちづくり</p> <p>人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとするユニバーサルデザインのまちづくりの視点が求められています。</p>	<p>1st. ユニバーサルデザインのまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の不便さや利用しづらさを知り、互いの個性や立場の理解を促進するため、市民や職員、事業者などに対し、ユニバーサルデザインの学びの機会を設けます。 ・ 多くの市民が市の様々な事業に参加できるよう、「見やすさ」「読みやすさ」「わかりやすさ」に気を付けた情報発信を行います。 ・ 公共施設のバリアフリー化(ユニバーサルデザイン化)に加え、イベント会場における導線や配置の工夫、わかりやすい案内サインの設置を行い、誰もが利用しやすい空間の整備を進めていきます。
<p>○ 男女共同参画のまちづくり</p> <p>男女共同参画の視点を、あるゆる分野に取り込み、浸透させていく必要があります。</p> <p>女性の活躍を推進し、男女の人権が尊重され、豊かで活力ある地域社会を実現するための取組が求められています。</p>	<p>2nd. 男女共同参画のまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固定的な性別役割分担意識の解消を目指し、男女共同参画の普及啓発、方針決定過程への女性の参画拡大を推進します。 ・ 長時間労働の抑制や多様な働き方を導入するなど、ワーク・ライフ・バランスに係る取組を推進するとともに、ドメスティック・バイオレンスなどあるゆる暴力の根絶を目指します。 ・ 生活の安定と福祉の充実を目指し、多様な性への理解促進と支援を行い、性別などの違いに応じた心及び身体への健康支援を進めます。
<p>○ 多文化共生のまちづくり</p> <p>外国籍市民等(国籍が日本以外の市民のほか、新たに日本国籍を取得した人や日本人との国際結婚による子ども等を含む)と日本国籍市民がお互いを尊重し、理解し合い、安心して暮らしていけるよう、多文化共生社会の実現を目指します。</p>	<p>3rd. 多文化共生のまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動などを通じて文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成を進めていきます。 ・ やさしい日本語・多言語での情報提供を行

	<p>い、日本語習得や日本の生活ルールや習慣、文化の違いを知ることが出来るよう機会の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来客の多い市役所窓口へ翻訳システム導入するなど、相談体制の充実を図ります。
<p>○ 人権を取り巻く社会</p> <p>人権とは、性別・年齢・社会的身分等にかかわらず、誰もが生まれながらにして持っている人間として幸せに生きていくための権利です。すべての人々の人権が尊重される社会の実現のため、人権問題についての正しい理解が必要です。</p>	<p>4th. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重し差別のない明るく住みよい安曇野市の実現のため、家庭、地域、学校、職場などあらゆる場において人権教育活動を推進し、人権に対する理解を促進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
審議会・委員会等における女性委員の割合	25.53% (R3)	40%以上 60%未満 (R9)	
ふだんの生活で「差別」で困っている人の割合（外国籍市民の生活実態に関するアンケート調査）	8.6% (R3)	5%以下 (R9)	
地区公民館の人権学習会の参加者数	586 (R3)	1,000 (R9)	地区公民館の人権学習会の参加者数

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍するまちの推進	・ 年齢、性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、多様性を認め合い責任を分かち合い、自分らしく暮らせる共生社会を目指します。
選ばれるまち安曇野の持続	・ 一人一人の個性と能力が発揮できる共生社会の実現に向けた歩みを進めていきます。
文化・芸術中核都市の実現	・ 国際交流団体や多文化共生支援団体、関係課と連携して交流を促進し、異なる文化についての相互理解や国際性豊かな市民感覚を育みます。
アウトドア・シティの形成	・ 誰もが安心して移動できる安全な道や公共施設の整備・維持、わかりやすい案内サインの設置等を行います。

調整用ページ

6-3 交流活動の推進

国内外の友好都市・姉妹都市との幅広い交流を促進するため、市民が交流事業に参加しやすい環境を作ります。また、互いの地域の魅力や強みを活かした交流活動により、双方の地域活性化につなげていきます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 国内7つの都市と友好提携を締結</p> <p>安曇野市では国内7つの都市と友好提携を結び、各種交流を行っているほか、災害時相互支援にも取り組んでいます。</p> <p>交流活動を契機として、それぞれの住民が互いの地域への関心が高めることで、関係人口の創出や双方地域の活性化に結びつくことが期待されます。</p>	<p>1st. 市民への交流事業参加機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民同士が自主的に行う交流を支援することで、息の長い自発的交流を促します。 ・ 住民同士の往来を伴う交流事業を、1都市につき毎年1事業実施します。 ・ 互いのイベントに相互出展することで、双方の地域をPRする機会を創出します。
<p>○ 国外姉妹都市交流の担い手育成が必要</p> <p>国外姉妹都市であるオーストリア共和国クラムザッハとは、30年に渡る交流が続いています。</p> <p>提携協定では、文化・芸術・社会・環境の分野で可能な限り交流を行うこと、住民の相互理解に積極的に努めること、青少年交流を可能な限り実現することが謳われています。</p> <p>この協定に基づく交流を今後も継続、推進するため、交流に対する市民の認知度を高め、担い手の裾野を広げる必要があります。</p>	<p>2nd. 幅広い立場、年代の市民への交流事業参加機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姉妹都市の受入、訪問事業への市民参加を促すため、市報やホームページ等で積極的に情報提供を行います。 ・ 姉妹都市との受入、訪問事業を定期的実施します。 ・ 民間レベルでの交流を推進するため、市民団体の活動を支援します。
<p>○ 交流を通して青少年の育成を推進する</p> <p>子どもの多様性を育むために、集団活動の中で自分の役割を認識し、考える力を養う場や、異なる環境で暮らす同世代の子ども達の交流を通し、幅広い見識を身につけることが有効です。</p> <p>青少年が市の代表として交流事業に参加し、改めて郷土について考え、郷土愛を育む機会を提供することが必要です。</p>	<p>3rd. 青少年交流事業を通じ、相互の地域文化の理解を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友好都市との青少年交流事業を通して、相互の地域の自然や文化、風習を体感し学ぶ機会を青少年に提供します。 ・ 参加した児童生徒の、生まれ育ったまちへの郷土愛を培うとともに、豊かな個性と広い視野を持った青少年の健全育成を目指します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市民団体が主催する国内友好交流都市などとの交流事業数（事業）	0 (R3)	5 (R9)	市民団体への国内友好交流推進事業補助金交付数
姉妹都市との交流の認知度（％）	20.2 (R2)	38.0 (R8)	現状値は、R2調査のホストタウン相手国がオーストリアだと知っている市民の割合。R5以降は、姉妹都市との交流を知っているか否かを調査する予定。

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
（希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	・ 国際交流を推進し、市として積極的に外国人と交流を深めます。
選ばれるまち安曇野 の持続	・ 国内交流・国際交流を継続して実施することにより、関係人口・交流人口を創出します。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 友好都市や姉妹都市との国際交流を通じて、安曇野市の魅力を PR（自然環境、農産物、文化等）します。
文化・芸術中核都市の実現	・ 友好都市や姉妹都市との国際交流を通じて、互いの文化への理解を深めるとともに、友好都市や姉妹都市の文化を市内に広く伝えます。
アウトドア・シティの形成	・ オーストリアのカヌー選手団と交流を継続することにより、海外での安曇野のアウトドア・スポーツ環境の PR を図ります。

6-4 デジタル技術を活用した行政変革

AI や RPA、IoT などのデジタル技術を活用し、業務の効率性や組織の生産性の向上を図るとともに、行政サービスの利便性を高め、市民の生活の質の向上を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 業務効率化や生産性向上が求められる</p> <p>人口減少に伴って職員数の減少も避けられない一方で、市民ニーズや地域課題の多様化・複雑化が進んでいます。</p> <p>限られた人的資源の中で、行政サービスの質を向上・維持していくためには、業務の効率化や組織の生産性向上が必要です。</p>	<p>1st. デジタル技術の積極的な導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の見直しとともに、デジタル技術を積極的かつ効果的に導入することで、業務の効率化や生産性の向上を図ります。 ・ 情報システムの標準化・共通化やクラウドサービスの利用など、情報基盤の整備を推進します。 ・ 業務プロセス改革を進めるとともに、ペーパーレス化、電子決裁等の導入と合わせて、テレワーク環境を整えるなど、職員の多様な働き方を支援します。
<p>○ 新型コロナウイルス感染症による社会の変容</p> <p>新型コロナウイルス感染症により「人との接触を避ける」非対面での行政手続きサービス等の利用拡大が求められています。</p> <p>DX は「市民目線でサービスの提供方法自体を変えていくもの」と解釈し、その動きを加速させる必要性があります。</p>	<p>2nd. 暮らしの利便性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が利用しやすい環境で行政手続きを行えるようにするために、マイナポータルを利用した手続きオンライン化も含め、WEB サイト上の申請案内の充実、手続き時の窓口滞在時間の縮減などに取り組みます。 ・ 時間と距離に左右されずに行政サービスを提供する「デジタル市役所」を実現し、市民の生活の質の向上を目指します。 ・ 多言語化への対応を図り、外国人の方が利用しやすい行政サービスを提供します。
<p>○ デジタル・デバイド(情報格差)の拡大</p> <p>インターネットなどの情報通信技術の利用環境が拡大する中、高齢者にはデジタル活用に不安のある者が多く、また、「電子申請などができること自体を知らない」など、その恩恵を得られる人と得られない人との格差が拡大しています。</p>	<p>3rd. 誰一人取り残さない行政サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業などとも連携して、高齢者を対象としたスマートフォン等の活用講座の開催によるデジタルツールの利用促進を図ります。 ・ 対象者の場所へ出向いて働きかける(アウトリーチ型)といった手法など、全ての市民が恩恵を受けられる環境をつくります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
行政手続のスマート化（件）	0（R3）	50（R9）	
AI、RPAの導入件数（件）	3（R3）	15（R9）	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進

- ・ デジタル市役所の実現により、高齢者や障がい者、外国人など、あらゆる人が利用しやすい行政サービスを提供します。
- ・ デジタルデバイドの解消を図ることで、デジタル技術の恩恵を誰もが受けられる環境を目指します。

6-5 市民の視点に立った行財政運営

少子高齢化による人口減少を見据えつつ、持続可能な行財政運営を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 複雑化・多様化する市民ニーズへの対応</p> <p>多様化・複雑化する地域課題や市民ニーズを的確にとらえ、適切に対応するため、多様な方法での人材育成や人材の確保に努めることが求められます。</p>	<p>1st. 自ら考え、行動する職員の育成</p> <p>主体的に自らの知識や能力を高めることを常に意識し、さまざまな課題・問題を解決するために「自ら考え、行動する」職員の育成に努めます。</p>
<p>○ 健全財政の堅持</p> <p>高齢化の進行などによる扶助費の増加、生産年齢人口の減少に伴う税収の減少、老朽化が進む公共施設等への対応により、厳しい財政状況が続くことが見込まれます。</p> <p>今後も継続的に歳出予算全体を見直し、最小の経費で最大の効果を挙げることに注力する必要があります。</p>	<p>2nd. 持続可能な財政基盤の確立</p> <p>時代の変化に柔軟に対応するとともに必要な事業に着実に取り組むことができるよう、「計画行政の推進」、「健全財政の堅持」を基本に将来を見据えた行財政運営に努めます。</p>
<p>○ 滞納整理の実施</p> <p>税負担の公平性と自主財源の確保を図るため、課税客体の的確な把握に努めているとともに、滞納者に対しては財産調査を行い、滞納整理を実施しています。</p> <p>義務的経費を中心とした財政需要の増加など、厳しい財政状況が見込まれることから、一層の計画的・効率的な財政経営を行う必要があります。</p>	<p>3rd. 収納率のさらなる向上に向けて</p> <p>課税客体の的確な把握に努めるとともに、徴収対策の強化、滞納整理に係る技術の向上を図ります。</p> <p>また、納税環境の整備(口座振替やキャッシュレス決済等)を図り、収納率のさらなる向上を図ります。</p>
<p>○ 財産の効率的な運用</p> <p>取得当時の役割を終了した普通財産のうち、特に未利用の財産について、効率的なマネジメントを進めています。</p> <p>また、市所有施設の適正な維持管理とともに、公用車は、環境に配慮した車両の導入を進める必要があります。</p>	<p>4th. 先を見据えた財産の管理・更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未利用財産は、他の施設への活用の可能性など再配置の検討を行います。 ・ 市所有施設は、整備計画に沿った修繕を実施し、故障などのトラブルを抑制します。 ・ 公用車の更新にあたり、電気自動車やハイブリット車等への計画的な更新を進めます。
<p>○ 競争性・透明性の確保</p> <p>入札制度の運用は、公金を取り扱うため、できる限り安価で調達する原則がある一方で、地域の活性化に向けた受注機会の拡大をする必要があ</p>	<p>5th. 社会情勢に応じた入札制度の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般競争入札の拡大により、公平性や競争性の確保と、市内事業者の受注機会の確保を両立する取り組みに努めます。

<p>ります。</p> <p>契約に基づき適正な工事や業務の完成、物品の納入検査により確認を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履行状況を確認するとともに給付の完了を確認し、透明かつ公平な品質の確保向上に努めます。
<p>○ ふるさと納税が全国的に加速</p> <p>全国の自治体において、特産品のPRと自主財源確保を目的に、様々な取組が行われています。</p> <p>本市においても返礼品の充実をめぐる中で、新たな名産物づくりやアウトドア体験など知名度向上の取組を継続していく必要があります。</p>	<p>6th. 返礼品の充実</p> <p>ふるさと納税を通じて地場産品や工業製品等のPRに努める中で、財源確保とともに安曇野市の知名度アップと産業振興を図ります。また、アウトドア等体験型の返礼品の充実を図り本市のイメージの浸透を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市職員の通信教育講座受講割合（％）	16.3 (R3)	18.0 (R9)	
実質公債費率（％）	10.0 (R3)	8.6 (R9)	
市税現年収納率（％）	99.59 (R3)	99.6 (R9)	

関連するデータ

掲載を希望するデータがあれば、名称と資料名（統計名）を以下に記載してください。
 （希望がある場合）⇒

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する まちの推進	・ 「障がい者の雇用の促進等に関する法律」の趣旨に基づき、障がい者を率先して雇用します。
選ばれるまち安曇野 の持続	・ 人口減少社会が進む中、時代に即した行財政運営を行い、安曇野市を発展・持続させます。

調整用ページ